

ササキ



取扱説明書

超耕速

ACTIVE ROTARY

アクティフロータリー

アクティフロータリー



ACE243R/RL



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために、必ず本取扱説明書をお読みください。

誤った使い方をすると、事故を引き起こすおそれがあります。

ご使用前に必ずお読みください。

お読みになった後も必ず製品の近くに保管してください。

安全作業で家族も笑顔


目次

はじめに	2	IV. 延長サイドレベラーの操作	29
警告表示について	2	V. 補助サイドプレートの調整	29
安全に作業するために	3	VI. 逆転PTOについて	29
安全銘板の貼り付け位置	9	VII. リヤカバー上げロックの使い方	30
保証とサービスについて	10	トラクタからの取り外し	31
各部の名称	11	点検整備・保守管理	32
梱包・組立	12	Ⅰ. 作業シーズン中	32
装着前の準備	14	Ⅱ. 作業シーズン終了後	32
ユニバーサルジョイントの切断方法	16	Ⅲ. オイルの点検、交換及びグリース	
トラクタへの装着準備	17	注油について	33
Ⅰ. オートヒッチの取り付け	17	Ⅳ. フローティングシールの交換	35
Ⅱ. ユニバーサルジョイントの取り付け	18	Ⅴ. ツメ交換について	37
Ⅲ. トラクタへの取り付け	20	トラブルの原因と処置方法	38
作業前の調整	21	主要諸元	40
Ⅰ. チェックチェーンの調整	21		
Ⅱ. 水平調整	22		
Ⅲ. 最上げ位置の調整	22		
Ⅳ. トップリンクの調整	22		
Ⅴ. ゲージ輪の幅調整	22		
移動・ほ場への出入り	23		
作業前の点検	24		
作業時の注意	24		
作業姿勢の調整	25		
Ⅰ. トップリンク長さ	25		
Ⅱ. ゲージ輪	25		
Ⅲ. 調圧ロット部スプリングエンドの位置	25		
Ⅳ. 補助サイドプレート	25		
作業方法	26		
上手な作業のしかた	27		
Ⅰ. 作業速度とツメ軸回転速度			
(PTO速度)	27		
Ⅱ. 作業深さの調整	27		
Ⅲ. リヤカバーの調整	28		

ササキ製品をお買い上げいただき

誠にありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書は、アクティブロータリー(以下、本機と記載)の取扱方法と、使用上の注意事項について説明しております。ご使用前には、必ずこの取扱説明書をよく読み、十分理解してから、正しくお取り扱いください。
- お読みになった後は、必ず本機の近くで保管し、必要な時に、読めるようにしてください。
- 本機を貸与または譲渡された場合は、この取扱説明書を商品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに当社あるいは当社の特約店・販売店にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。
- その際には、本書の内容及び写真・イラストなどの一部が、本商品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- ご不明なことやお気付きの点がございましたら、お買い上げいただきましたお店、または、お近くの特約店・販売店・JAにご相談ください。
-  印付きの下記のマークは、安全上特に重要な項目ですので、必ずお守りください。

危険

この警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを意味します。

警告

この警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを意味します。

注意

この警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを意味します。

重要


注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものをあらわします。

補足

その他、使用上、役に立つ補足説明をあらわします。

この取扱説明書には安全に作業していただくために、安全上のポイント「安全に作業するために」を記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

安全に作業をするために

本機をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読み、ご理解いただいたうえで安全な作業をおこなってください。安全に作業するために、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも本文の中で「 警告サイン」として説明のつど取り上げております。

◎一般的な注意事項

警告 こんな時は作業しない

- ・過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- ・酒を飲んだとき。
- ・妊娠しているとき。
- ・18歳未満の人。

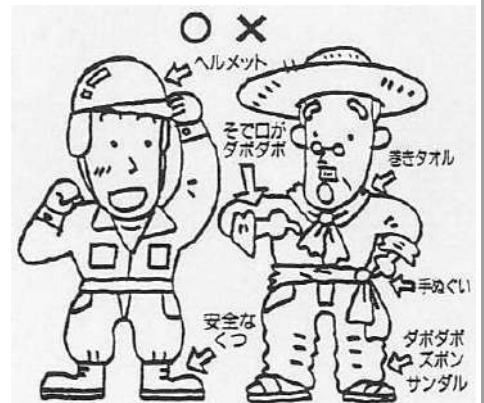


警告 作業に適した服装をする

はちまき・首巻き・腰タオルは禁止です。
ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具などをつけ、だぶつきのない服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりするおそれがあります。



警告 機械を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の損傷をまねくおそれがあります。



注意 機械の改造禁止

純正部品や指定以外のアタッチメントを取り付けないでください。

【守らないと】

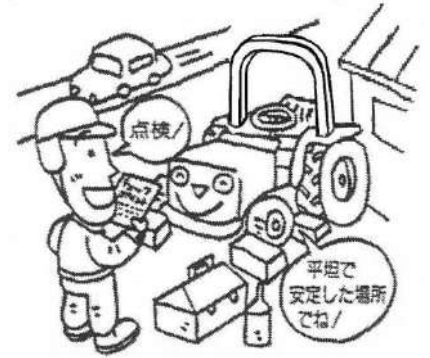
事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。



◎作業の前に

⚠ 警告 始業点検整備は平坦で安定した場所で行う

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、トラクタの前輪には車止めをして点検整備してください。

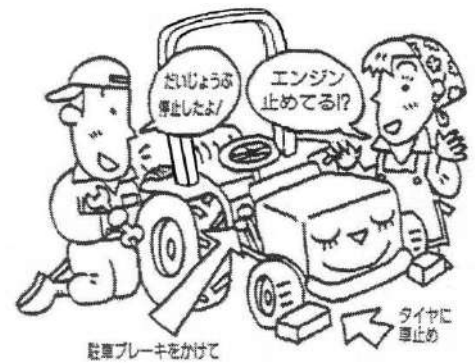


【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

⚠ 警告 点検整備中はエンジンを停止する

点検・整備・修理または掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。



【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- ・作業の前には、点検・整備をおこなってください。
- ・各部のボルト・ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。
- ・カバー類を外したら、必ず取り付けてください。

◎トラクタへの着脱

⚠ 危険 運転時はジョイントカバーを外さない

運転時はユニバーサルジョイントのカバーを外さないでください

【守らないと】

ユニバーサルジョイントに巻き込まれて、傷害事故を起こすおそれがあります。



⚠ 警告 作業機の着脱は平坦な場所で行なう

作業機の着脱は、平坦で安定した場所でおこなってください。

夜間は、適切な照明をしてください。

【守らないと】

事故を起こすおそれがあります。



⚠ 警告 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしない

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を起こすおそれがあります。



⚠ 警告 重い作業機をつけるときはウェイトでバランスを取る

重い作業機を装着したときは、フロントにバランスウェイトをつけてバランスを保ってください。

【守らないと】


バランスを崩して事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 注意

- ・トラクタから離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、PTO変速を中立にしてください。
- ・2人以上で作業をおこなう場合は、互いに合図・確認をしあって作業してください。
- ・ユニバーサルジョイントの止めピンが、確実に軸の溝にはまっているか確認してください。
- ・取り付け部のピンが、すべて確実に装着されているか確認してください。

◎路上走行

 **注意** トラクタに作業機を装着した状態での公道走行時は法令を遵守する

トラクタに作業機を装着した状態で公道を走行する場合は、下記の法令を遵守する必要があります。

【道路運送車両法】 保安基準として、灯火装置や反射器、制限標識などを必要に応じて取り付け

【道路交通法】 免許区分に応じた運転免許証の携帯

【道路法】 一定の大きさや重量を超える場合は、特殊車両通行許可の申請

※ 詳細は農林水産省や日本農業機械工業会の HP をご覧頂くか、販売店にお問い合わせください。

【守らないと】

法令違反です。

交通事故を引き起こすおそれがあります。

注意

- ・トラクタに運転者以外の人を乗せないでください。
- ・作業機には 乗らないでください。
- ・作業機の PTO 回転を止めてから走行してください。
- ・トラクタの落下速度調整ハンドルを回して、必ず油圧ロックをしてください。
- ・旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。
- ・作業機を装着した時、機体寸法が大きくなるので、走行時は十分注意してください。
- ・溝のある農道や、両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意して移動してください。

◎圃場への出入り

注意

・圃場に入るときは、必ず前進で速度を落とし、作業機を低くして重心を下げ、畦や段差に対して直角に進んでください。

・圃場から出るときも同様に、速度を落とし、作業機を低くして重心を下げ、畦や段差に対して直角に進んでください。

・急な坂などでは無理をせず、後退して圃場から出てください。

【守らないと】

畦や段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒するおそれがあります。

畦や段差に対して作業機を下側にすると、転倒するおそれがあります。

◎作業をしているとき

▲ 警告 回転部（ツメ・刃、軸等）に巻き付いた草等を取るときは
エンジン停止

回転部（ツメ・刃、軸等）に巻き付いた草等を取るときは、
トラクタのエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、重傷を負うおそれがあります。



▲ 警告 子供を近づけない

子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



▲ 警告 トラクタと作業機の周辺に人を近づけない

トラクタを移動して作業機を着脱するときは、トラクタの周辺や
作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



▲ 警告 作業機指定のPTO回転を守る

低速回転用の作業機を、高速回転で使用しないでください。
作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。

【守らないと】

作業機が異常作動し、事故や機械の破損を引き起します。



⚠ 注意

- ・補助作業者がある場合は、お互いに動作ごとに合図をかわしてください。
- ・回転部分や動くところには触れないでください。

◎トラクタを駐停車するとき

⚠ 警告 機械から離れるときは作業機を地面に降ろしてエンジンをとめる
機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、
昇降レバーで作業機を下げて、エンジンをとめて、
始動キーを抜き、必ず駐車ブレーキを掛け、
車止めをしてください。

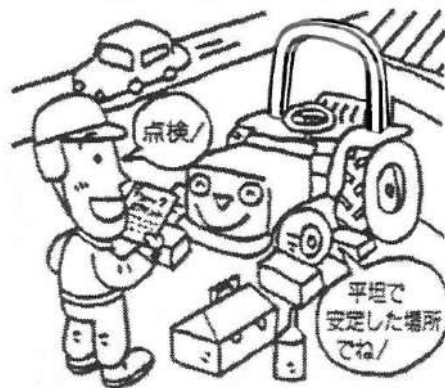


【守らないと】

トラクタが動きだし、事故を起こすおそれがあります。

◎点検や格納のとき

⚠ 警告 点検整備は平坦で安定した場所で行なう
機械を点検・整備・格納をするときは、平坦で安定した場所に
置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け、車止めを
してください。



【守らないと】

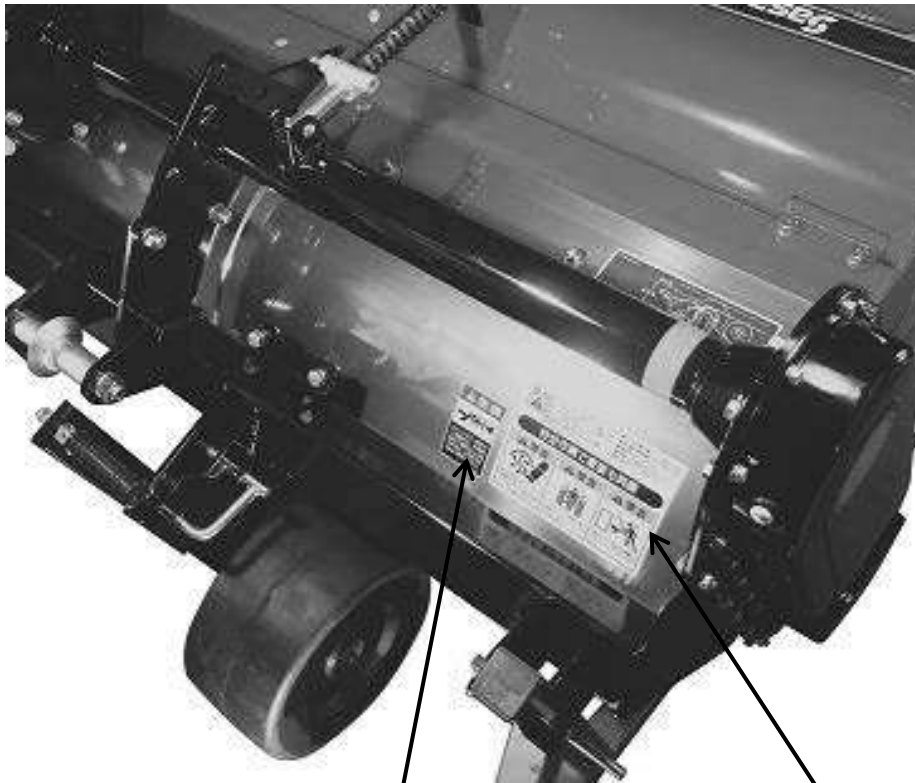
トラクタが動きだし、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- ・点検・整備時は、トラクタのエンジンを止めてください。
- ・機械の下にもぐったり、下で作業したりしないでください。
- ・キャスターなどが付いている場合は、車止めをして作業してください。

【守らないと】 機械が不意に動きだし、傷害を負うおそれがあります。

安全銘板の貼り付け位置





部品番号 000004210

注意

● 注意事項を熟読して、安全に作業して下さい。 ● トラクタから離れる際は、エンジンを停止して下さい。
 ● トラクタの前方や後方の死角がないことを確認して下さい。 ● 作業中は、乗客の乗降は、エンジンを停止して下さい。
 ● エンジン始動時は、周囲に人がいないことを確認して下さい。 ● 作業開始前は、PTOを停止して下さい。
 ● トラクタとの距離は、手前側で決めて下さい。 ● 作業開始の音が一通りの響き止まらないうちに、作業を開始して下さい。
 ● 作業中は、周囲に人がいないことを確認して下さい。 ● 作業中は、乗客の乗降は、エンジンを停止して下さい。
 ● 作業中は、乗客の乗降は、エンジンを停止して下さい。

安全作業で家族も笑顔

<p>警告</p>  <p>作業中は回転部に近づかないで下さい。点検整備をする際は、必ずトラクタのエンジンを止めて下さい。回転部に巻き込まれてケガをする確率が非常に高くなります。</p>	<p>警告</p>  <p>トラクタのロフリンクの内側及び持ち上げられる状態に入らないで下さい。ケガをするおそれがあります。</p>	<p>警告</p>  <p>作業中およびPTO回転中は作業開始に近づかないで下さい。ケガをするおそれがあります。</p>
--	--	--

0000-04040

部品番号 000004040

注意

- ・安全銘板が破損したり、はがれたりした場合は、上記部品番号、名称にて手配のうえ貼り直してください。
- ・新しい安全銘板を貼る場合は、汚れを完全にふき取り、乾いた状態にして元の位置に貼りつけてください。

保証とサービスについて

◎保証書について

『保証書』は、お客様が保証修理を受けられる際、必要となるものです。
お読みになった後は、大切に保管してください。

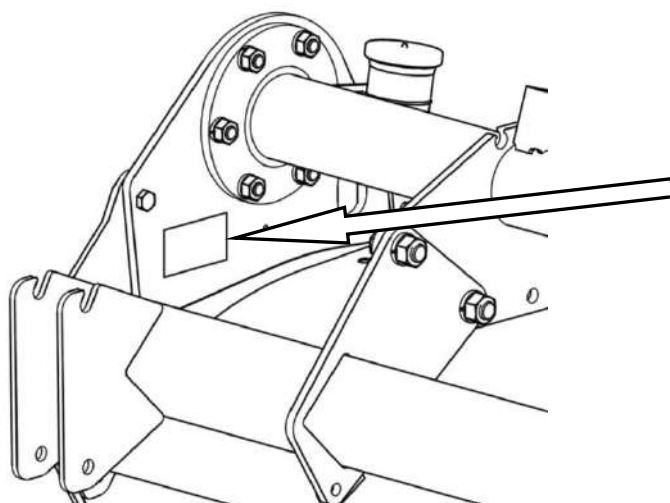
◎アフターサービスについて

ご使用中の故障やご不審な点など不具合があるときは、「お買いあげ先」にご相談ください。

《ご連絡いただきたい内容》

- ◇ 型式名（機体銘板に明記してあります）
- ◇ シリアル番号（機体銘板に明記してあります）
- ◇ ご使用状況は？
水田ですか？ 畑ですか？
ほ場の条件は 石が多いですか？ 強粘土質ですか？
トラクタの速度は？
P T Oの回転数は？
どのような作業をしていたときに？
- ◇ どのくらい使用しましたか？（約何アール又は約何時間使用）
- ◇ 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくおしらせください。

機体銘板貼り付け位置



機体銘板

農業機械の種類	アクティブロータリー
型 式 名	A C E 2 4 3 R
区 分	
シリアル番号	SS00000000
	
株式会社 ササキコーポレーション 青森県十和田市里ノ沢1番地259 MADE IN JAPAN	

◎補修用部品の供給年限について

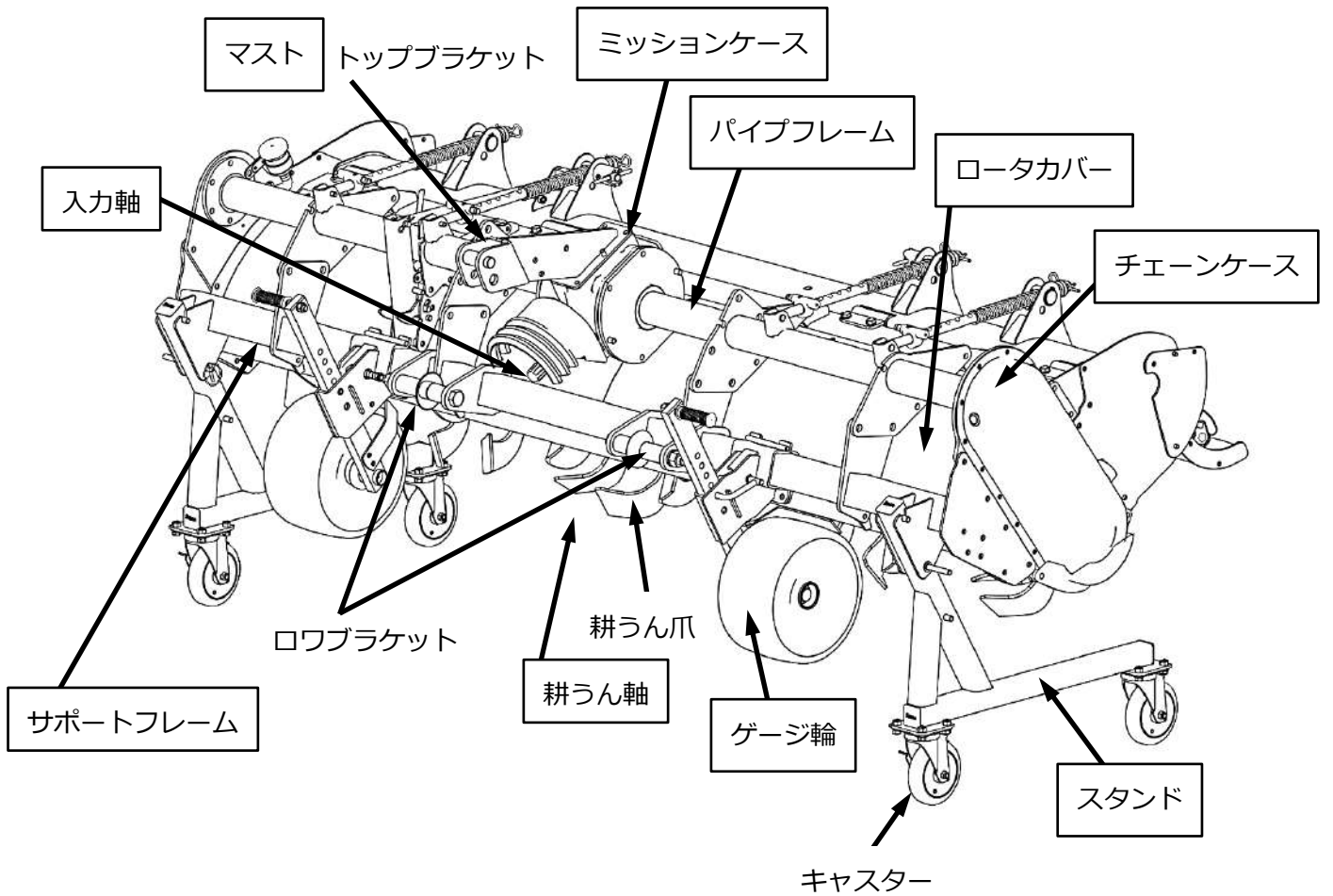
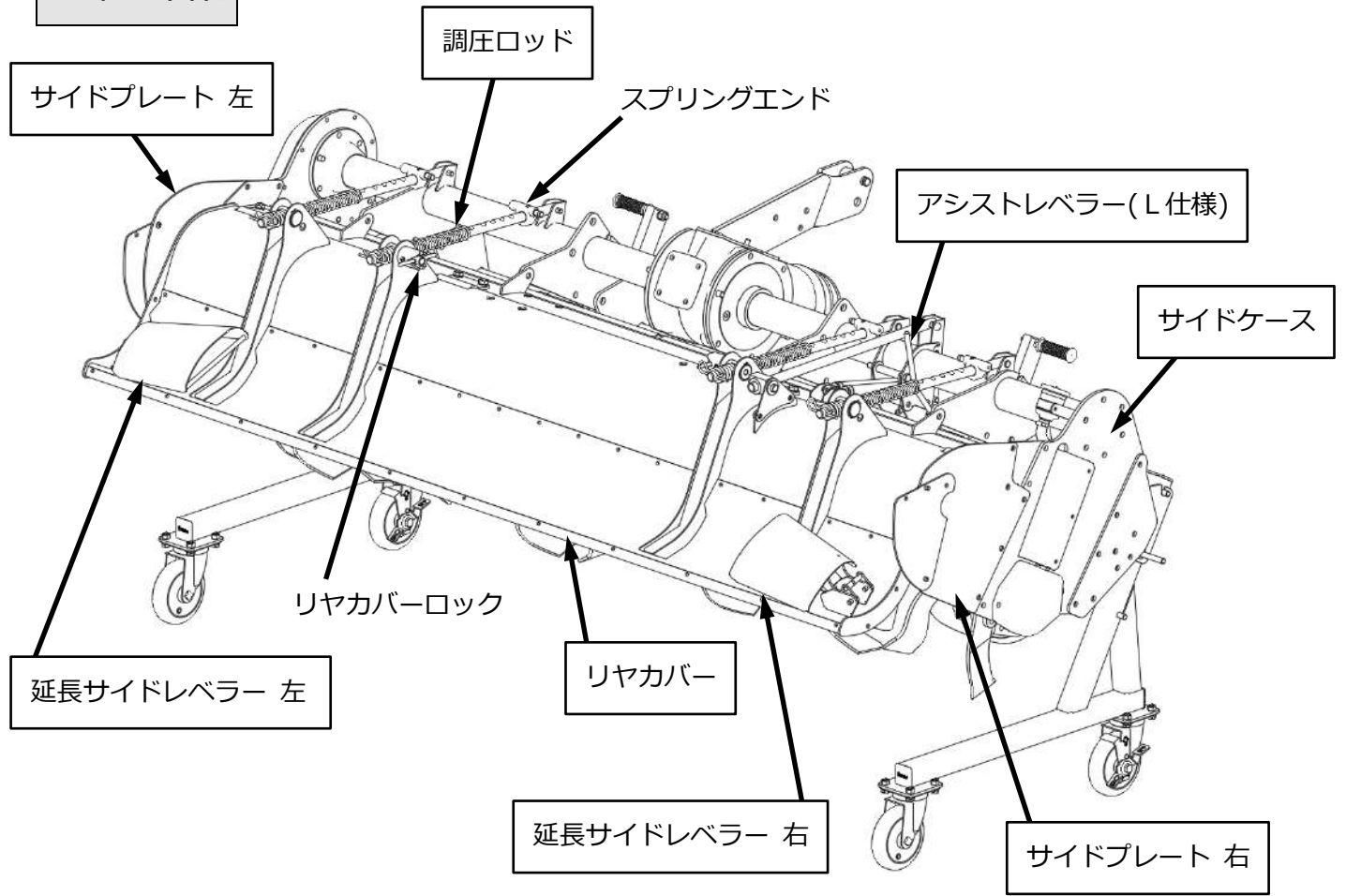
- 補修部品は、純正部品をお買い求めください。

市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や性能に影響する場合があります。

- この商品の補修用部品の供給年限は、製造打ち切り後9年です。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期をご相談させていただく場合もあります。

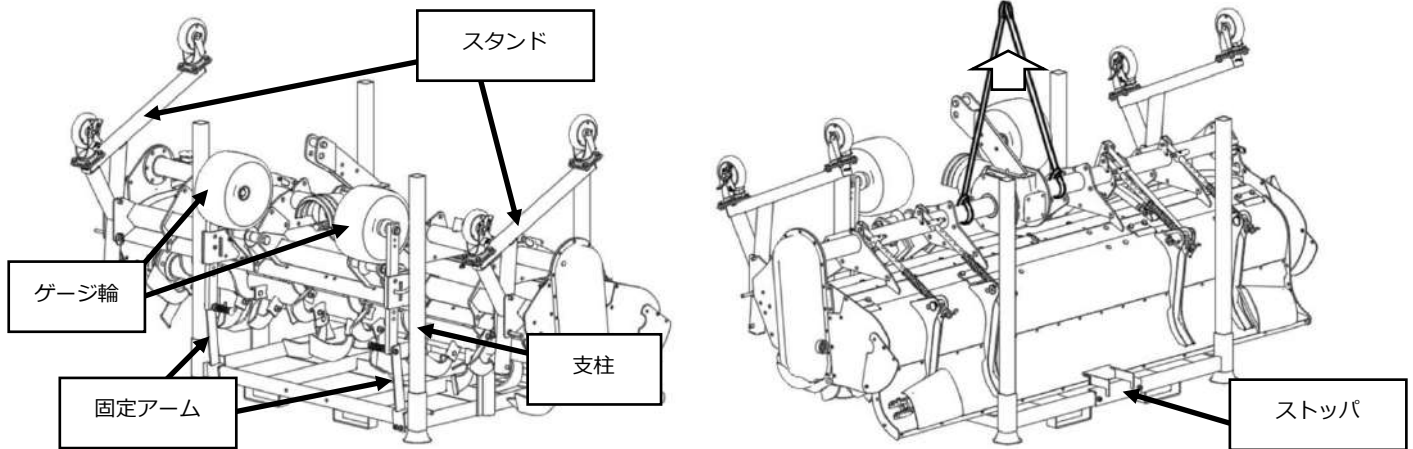
各部の名称



開梱・組立

梱包状態では、ゲージ輪とスタンドが逆さまに組み付けられています。

本機が倒れないよう吊り上げながら、開梱、組立作業をおこなってください。



注意

- 梱包を開梱するときは、まわりの人や物に注意してください。
- 鉄棒や梱包用金具、番線などに充分注意してください。守らないと鉄棒などでケガをする恐れがあります。



警告

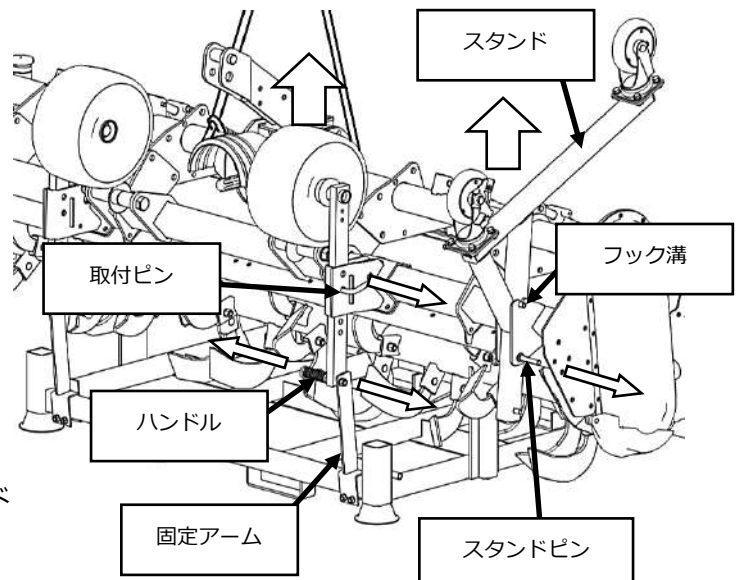
- 組立場所は、余裕のある平坦な場所でおこなってください。
守らないと思わぬ事故を起こす恐れがあります。
- 吊り上げた機械の下に、入らないでください。落下して死傷事故を、起こす恐れがあります。
そばに近寄る時は、落下の危険を考慮して、逃げ場所を確保してください。
- 梱包を解体するときは、手、足、頭等をケガしないように注意してください。
2人以上で作業するときは、お互いに合図をし、確認しあって作業してください。
守らないと思わぬ事故を、起こす恐れがあります。

1. ゲージ輪の取り外し (開梱)

梱包枠から支柱を抜き取り、本機は、梱包用の固定アームとハンドルで固定されていますので、ハンドルを一旦取り外し、取付ピンを引き抜き、ゲージ輪を上方へ持ち上げ引き抜いてください。

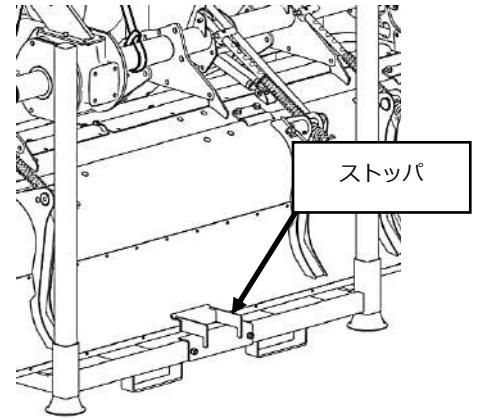
2. スタンドの取り外し (開梱)

スタンドは本機のスタンドブラケットのフック溝に引っかかり、スタンドピンにて逆さまに梱包されています。スタンドピンを引き抜き、スタンドを引き抜き上方へ持ち上げてください。



3. 本機の吊り上げ

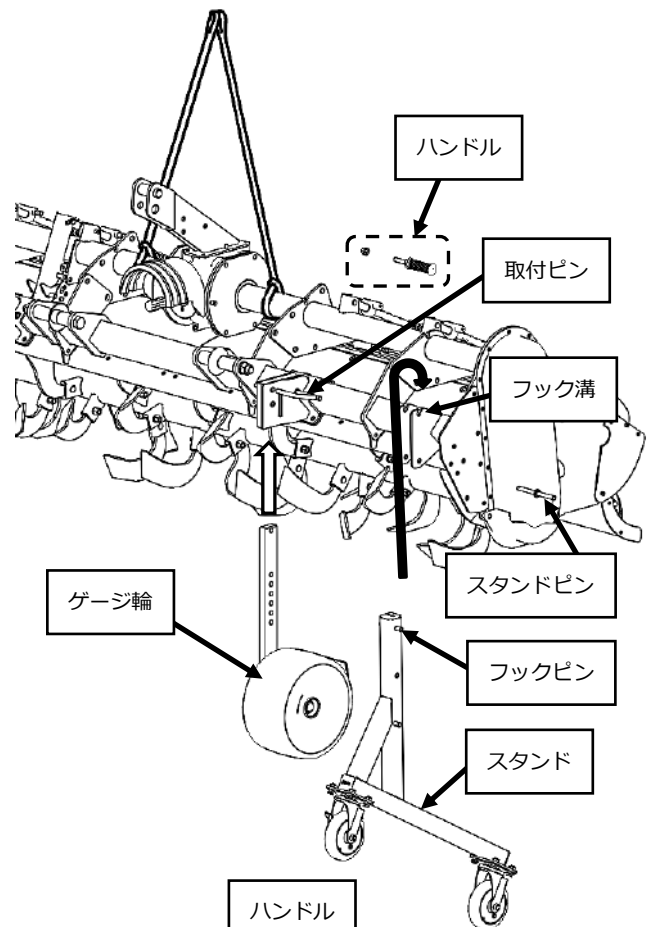
ストッパを取り外し、本機をゆっくりと吊り上げてください。



4. ゲージ輪の組立

本機を吊り上げた状態で、ゲージ輪を下側から挿入し、取付ピンで固定してください。

固定後、ハンドルを組み付けてください。



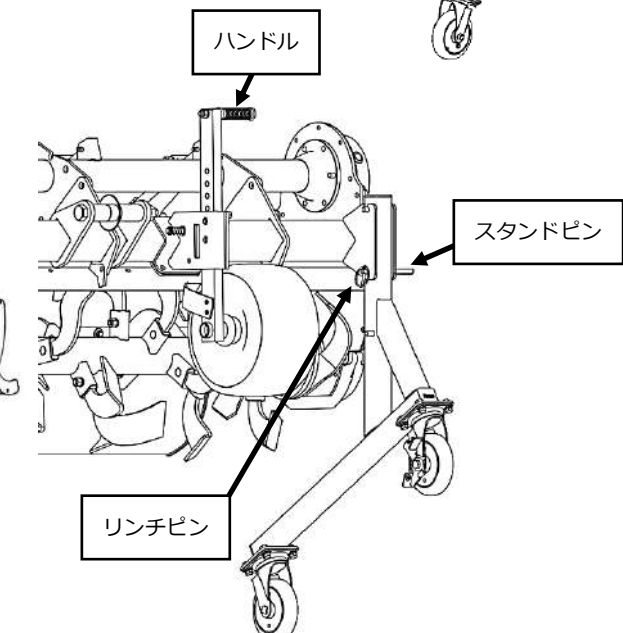
5. スタンドの組立

スタンドのフックピンをスタンドブラケットのフック溝部に引っ掛けてください。

次に下側の穴を合わせてスタンドピンを差し込みスタンドを固定してください。

スタンドピンが抜けないう、リンチピンでロックしてください。

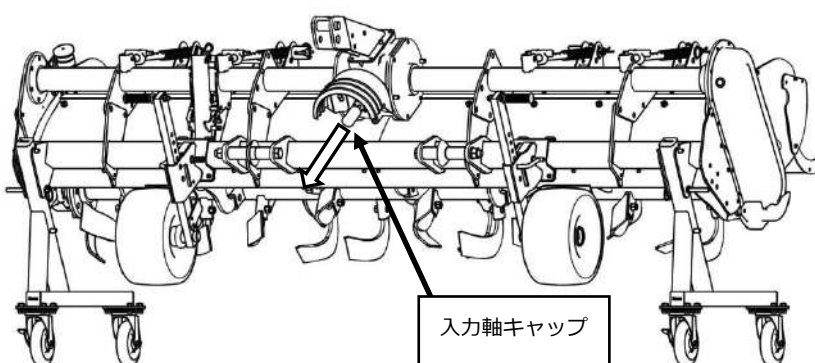
スタンドを装着し、地面にキャスターが接した状態がトラクタへの装着姿勢となります。



6. 入力軸キャップの取り外し

入力軸には、保護カバーとして入力軸キャップが装着されています。必ず外してください。

外さないで使用すると、破損につながる恐れがあります。



装着前の準備

各部のボルト・ナットの緩み、ピン類の脱落がないか、確認してください。

ある場合には、増し締め、組み付けをおこなってください。



注意

作業中にボルト、ナット、ピン等が外れますと、作業機の破損ばかりかトラクタの破損、人身事故につながるおそれがあります。

1. 作業機を装着すると機体の長さ・幅が大きくなり重量バランスが変わりますので確認のうえ、適宜フロントウェイト等を取り付けてください。

特にクローラトラクタの場合は、前部荷重がホイールトラクタに対し多く必要です。



警告

●適応トラクタの範囲内で使用してください。適応範囲以内のトラクタであっても、発進時・登坂時に、トラクタの前輪が浮き上がる場合には、必ずフロントウェイト等を、取り付けてください。

守らないと転倒等の事故で、死傷する恐れがあります。

●作業機の着脱は、平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所でおこなってください。守らないと作業機が動いて、死傷事故を起こす恐れがあります。

●作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。また、作業機とトラクタの間に、入らないでください。挟まれて死傷する恐れがあります。

2. 本機の装着は、日農工規格のオートヒッチで装着する方法を採用しています。本機を装着する際は、あらかじめトラクタの3点リンクへの装着方法を確認してください。

本機の3点リンクの規格は、型式末尾で確認してください。

装着方法（型式末尾）

「4 S 4 L」・・・3点リンクとユニバーサルジョイントが同時に連結できます。

「3 S 3 L」・・・3点リンクは自動で連結され、ユニバーサルジョイントは手で装着します。

「0 S 0 L」・・・お客様がお持ちの日農工オートヒッチに装着できます。

本機に、オートヒッチとユニバーサルジョイントは付属していません。

3. ユニバーサルジョイント（以下ジョイント）の長さは、必ず適正長さの範囲内で使用して下さい。

短すぎるとジョイントが抜けて思わぬ事故につながります。長すぎると機械を破損してしまいます。

短い場合は交換し、長い場合は切断して使用してください。

⚠ 危険

ユニバーサルジョイントを取り付けるときは、必ずエンジンを停止してください。
守らないと巻き込まれて、死傷事故を起こす恐れがあります。

⚠ 警告

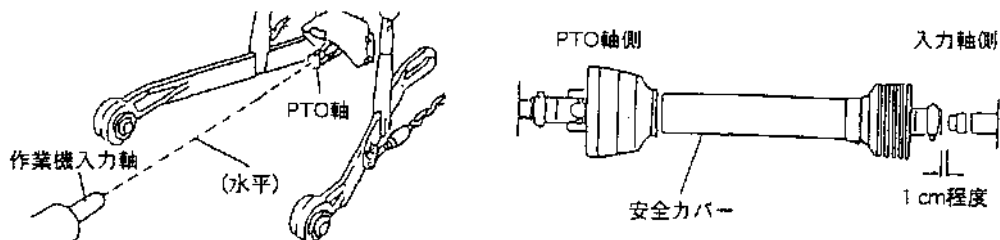
2人以上で作業するときは、お互いに合図をし、確認しあって作業してください。
特に、トラクタのエンジンをかける時や、エンジンが作動している間は、十分に注意してください。
守らないと思わぬ事故に、つながる恐れがあります。

⚠ 注意

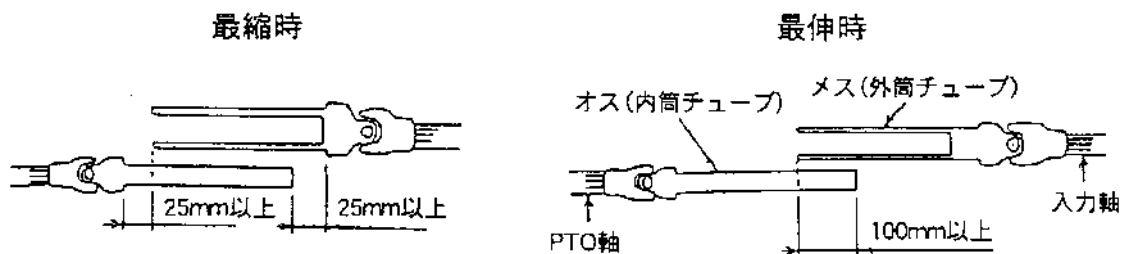
装着時は、トラクタのPTO変速を中立にしてください。

◎適正長さの確認

トラクタPTO軸と作業機の入力軸が水平で、一直線上にある時が、ジョイントが一番短くなる時です。この時に1cm程度のスキマがあればそのまま使用できます。



また、ジョイントのオス・メスを外して、それぞれPTO軸と入力軸に取り付け、水平で一直線上にある時（最縮時）に、下図のスキマが25mm以上あり、作業機を上下させてジョイントが一番伸びた時（最伸時）に、オス・メスの重なりが100mm以上あると適正長さの範囲です。



ユニバーサルジョイントの切断方法

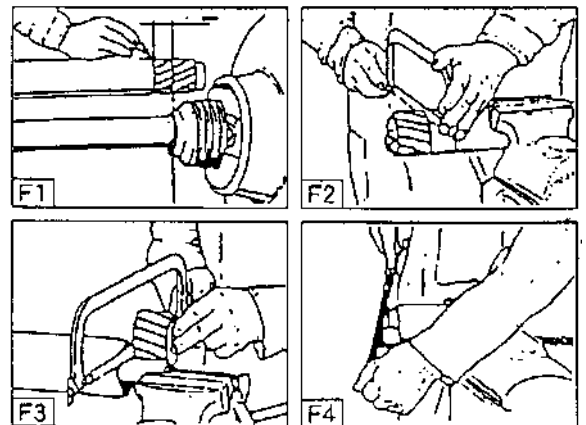
◎切断方法

1. ジョイントのオス・メスを外して、トラクタと作業機の最短の作業位置合わせ、相手側の安全カバーの筒の端から、25mmスキマがあく位置に、オス・メスの安全カバーへそれぞれ、マークをつけてください。(F1)

2. オス・メスの安全カバーに、マークをした長さだけ安全カバーを切断して下さい。(F2)

3. オス・メスの内外筒チューブを、安全カバーを切断した部分と、同じ長さだけ切断してください。(F3)

4. 切断後は、切り口にヤスリをかけ、バリを除きスムーズにスライドできるようにして下さい。(F4)



トラクタへの装着準備

I. オートヒッチの取り付け

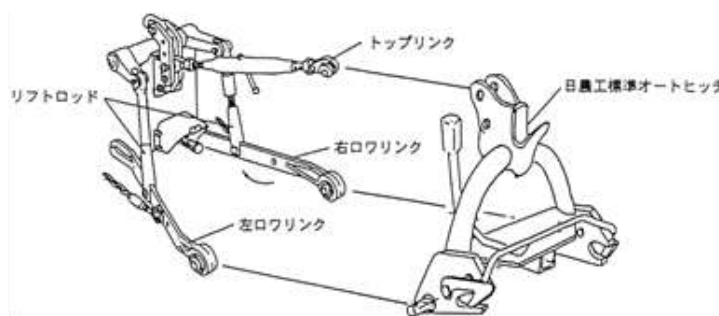
1. トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO変速を「中立」にし、エンジンを停止してください。
エンジンを始動できないようキーを抜いてください。
2. トラクタPTO軸にキャップが装着されている場合は、キャップを外してください。

補足

● PTO軸を使用しないときは、PTO軸にグリースを塗布した後、必ず元の位置にPTO軸キャップを取り付けてください。

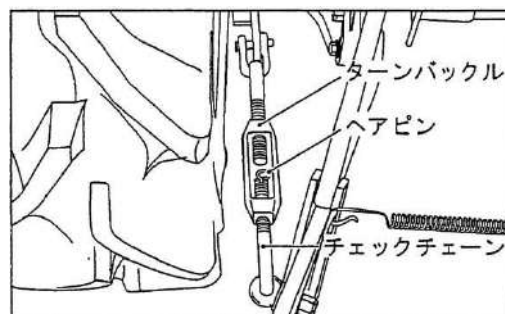


3. チェックチェーンをゆるめ、
オートヒッチをトラクタのロワリンクへ、
左ロワリンク、右ロワリンクの順に取り付けてください。



4. トップリンクピン(トラクタ付属)で、
オートヒッチをトップリンクに取り付けて
ください。

5. オートヒッチをトラクタの中心に合わせ、左右均等に10～20mm
振れるようにチェックチェーンを調整してください。



II. ユニバーサルジョイントの取り付け

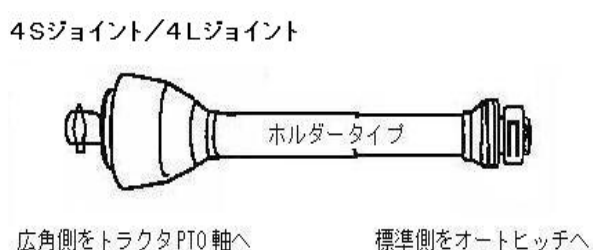
⚠ 危険

ロータリを装着していない状態では絶対にPTOを回転させないでください。
回転させると、損傷事故の原因となります。

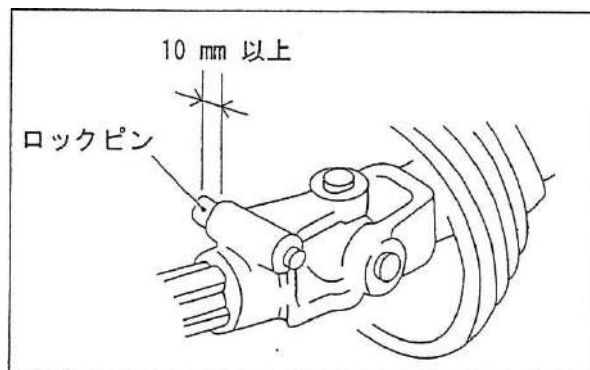
4S / 4L 装着の場合

1. トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO変速を「中立」にし、エンジンを停止してください。
エンジンを始動できないようキーを抜いてください。

2. トラクタPTO軸側に、ユニバーサルジョイントの 4Sジョイント/4Lジョイント
広角側が向くよう、方向を確認してください。
※ユニバーサルジョイントの広角側を作業機側へ
取り付けるとジョイントの破損につながります。

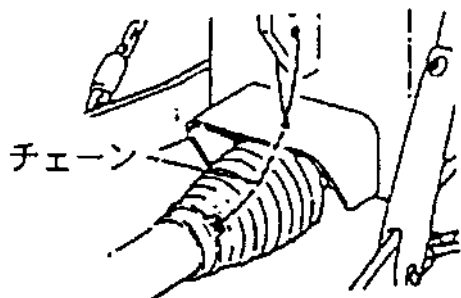
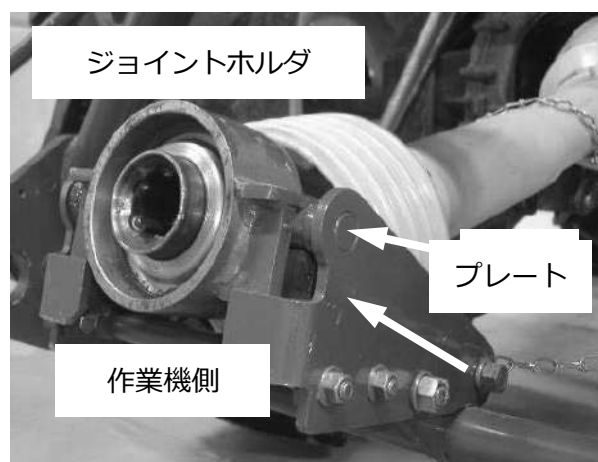


3. トラクタ側PTO軸へ、ユニバーサル
ジョイントのロックピンを押しながら、
スプラインを合わせ挿入してください。
挿入後、ロックピンの頭が10mm以上
出ていることを確認してください。
※挿入しづらくても、ハンマーなどでジョイントを叩き
無理に入れしないでください。ジョイント破損の原因
となります。



4. オートヒッチの左右プレートのピンに、
ジョイントホルダを入れて、セットしてください。

5. ユニバーサルジョイントの保護カバーのチェーンを
PTOが回転しても巻き込まれない場所につないで
回り止めをしてください。



3 S / 3 L 装着の場合

※トラクタへ作業機を装着後、ユニバーサルジョイントの取り付けをおこなってください。

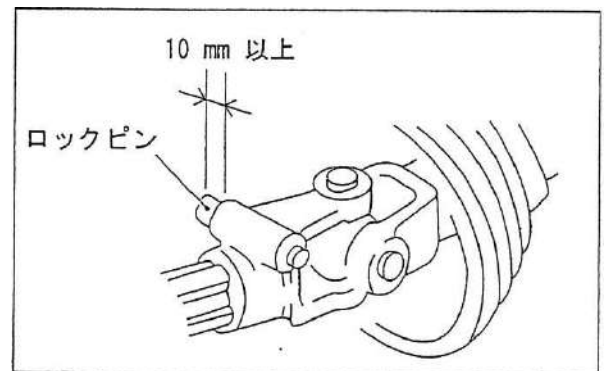
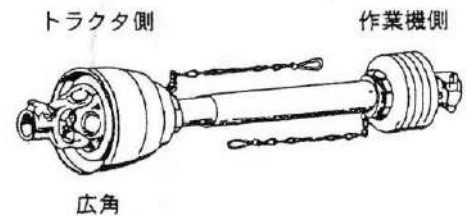
(トラクタへの取り付け参照 20ページ)

1. トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO変速を「中立」にし、エンジンを停止してください。エンジンを始動できないようキーを抜いてください。

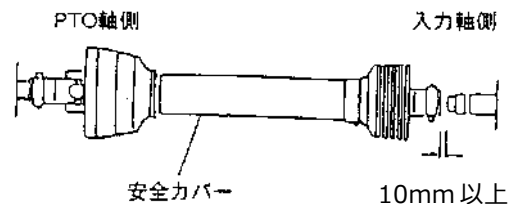
2. トラクタPTO軸側に、ユニバーサルジョイントの広角側が向くよう、方向を確認してください。

※ユニバーサルジョイントの広角側を作業機側へ取り付けるとジョイントの破損につながります。

3. トラクタ側PTO軸へ、ユニバーサルジョイントのロックピンを押しながら、スプラインを合わせ挿入してください。挿入後、ロックピンの頭が10mm以上出ていることを確認してください。



4. 作業機側入力軸とユニバーサルジョイントの先端との隙間が10mm以上ある場合は、ロックピンを押しながら、スプラインを合わせ挿入してください。挿入後、ロックピンの頭が10mm以上出ていることを確認してください。

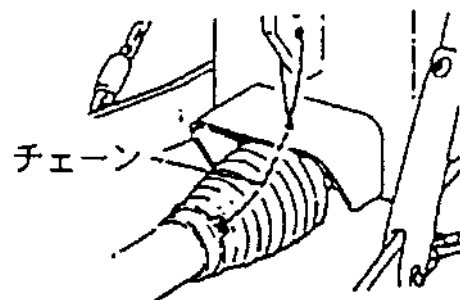


ジョイントの先端と、入力軸との間に隙間が無い場合は、切断方法を参照し適正長さにしてください。

※挿入しづらくても、ハンマーなどでジョイントを叩き、無理に入れないでください。

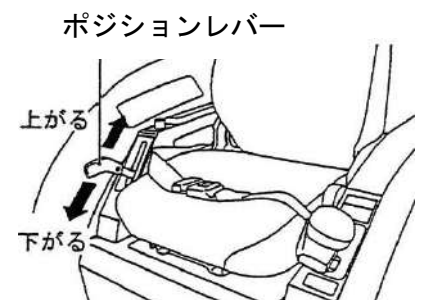
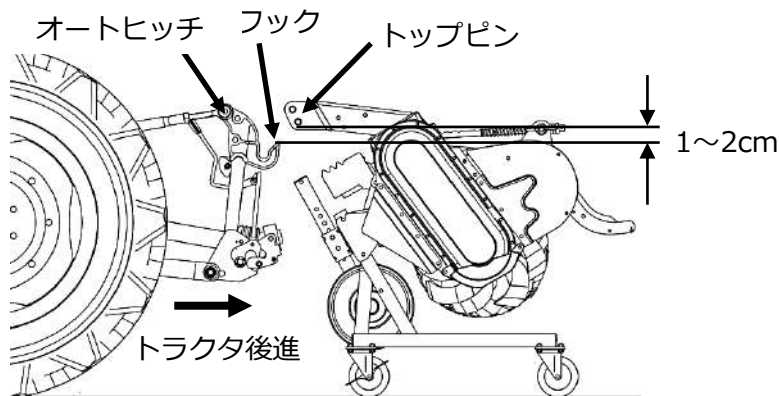
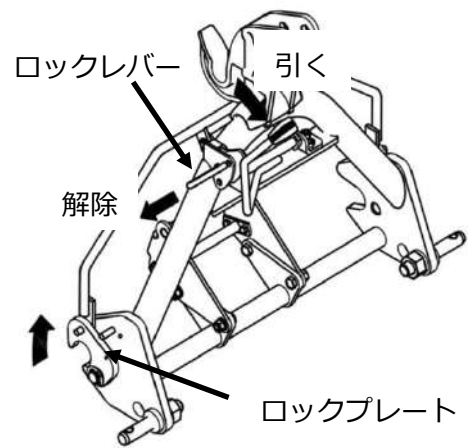
ジョイント破損の原因となります。

5. ユニバーサルジョイントの保護カバーのチェーンをPTOが回転しても巻き込まれない場所につないで回り止めをしてください。



Ⅲ. トラクタへの取り付け

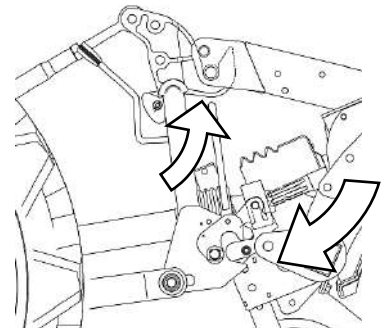
1. オートヒッチのロックレバーの解除をしてください。
2. レバーを引きロックプレートを解除してください。
3. トラクタのエンジンを始動し、作業機を中心に合わせトラクタをまっすぐバックさせてください。
4. オートヒッチのフック先端を、作業機マストのトップピンの下（1～2 cm）をねらって、3点リンクのポジションレバーを操作しながら、トラクタをバックさせてください。



5. オートヒッチのフックが、作業機マストのトップピンの下にくぐったら、ポジションレバーを操作し、3点リンクをゆっくり上げ、作業機をすくいあげてください。

そのまま、すくい上げていくと、作業機マストのロワピンが、オートヒッチのロワブラケットにはまります。

4 S / 4 L 装着の場合は、このとき同時に、ジョイントが自動で装着されます。

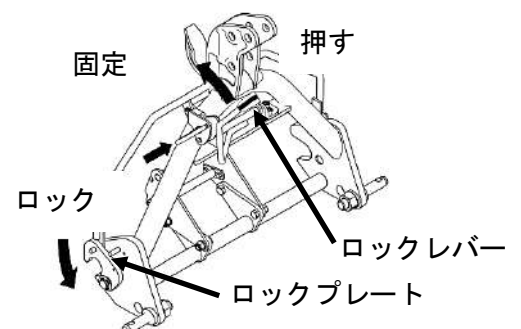


ジョイントがうまく入らなかったりした場合は、3点リンクを下げて作業機を外し、もう一度はじめから装着をやり直してください。

6. 作業機がオートヒッチにより吊り上げられ、スタンドが浮き上がったら、トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してください。

7. オートヒッチのレバーを押して、ロワピンをロックプレートで固定します。

8. ロックレバーを固定してください。



注意

オートヒッチの左右ロックプレートが確実にロワピンをロックしているか確認してください。ロック状態になっていないと、作業機が外れ、思わぬ事故につながる恐れがあります。

3 S / 3 L 装着の場合は、このとき同時に、ジョイントを装着してください。

危険

ユニバーサルジョイントを取り付けるときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと巻き込まれて、死傷事故を起こす恐れがあります。

トラクタによってユニバーサルジョイントの長さが合わない場合があります。

その時には、ユニバーサルジョイントの切断方法（14ページ）をお読みください

9. スタンドを取り外してください。

作業前の調整

警告

●ロータリの調整をするときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、P T O変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してからおこなってください。

トラクタのまわりやロータリとの間に人が入らないようにしてください。

ロータリの下へもぐったり、足を入れたりしないでください。

守らないと巻き込まれて、死傷事故を起こす恐れがあります。

脱着作業する時は、平坦で固い場所でおこなってください。2人で作業をする時は、お互いに合図しあって、注意して作業してください。

周りに人や動物・障害物がないことを確認してから作業してください。

I. チェックチェーンの調整（作業前には、必ずエンジンを停止してください）

トラクタの中心（P T O軸）と作業機の中心（入力軸）を一直線に合わせ、左右が均等に10～20mm揺れるようにチェックチェーンで調整をおこなってください

ユニバーサルジョイントの直線がずれていると、振動や騒音の原因になります。

石の多いほ場では、ややゆるめの調整をしてください。

II. 水平調整（作業前には、必ずエンジンを停止してください。）

作業機がトラクタに対して左右水平になるように、トラクタの自動水平装置のダイヤル等で、水平になるよう調整してください。

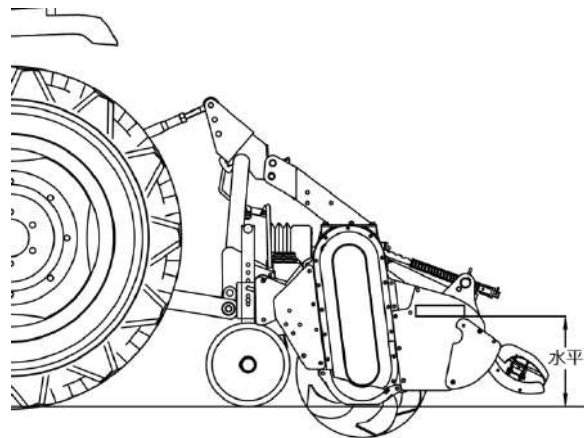
Ⅲ. 最上げ位置の調整

P T Oを回転させながら、作業機をゆっくりと持ち上げ、トラクタの一部に干渉しないか、動力伝達系統から異音がないかを確認し、干渉や異音がない位置で作業機を止めてください。

このとき、3点リンクに上がりしろがある場合は、「上げ高さ規制」をおこなってください。「上げ高さ規制」の方法は、トラクタにより異なりますので、トラクタの取扱説明書に従い、上げ高さ規制をおこなってください。

Ⅳ. トップリンクの調整

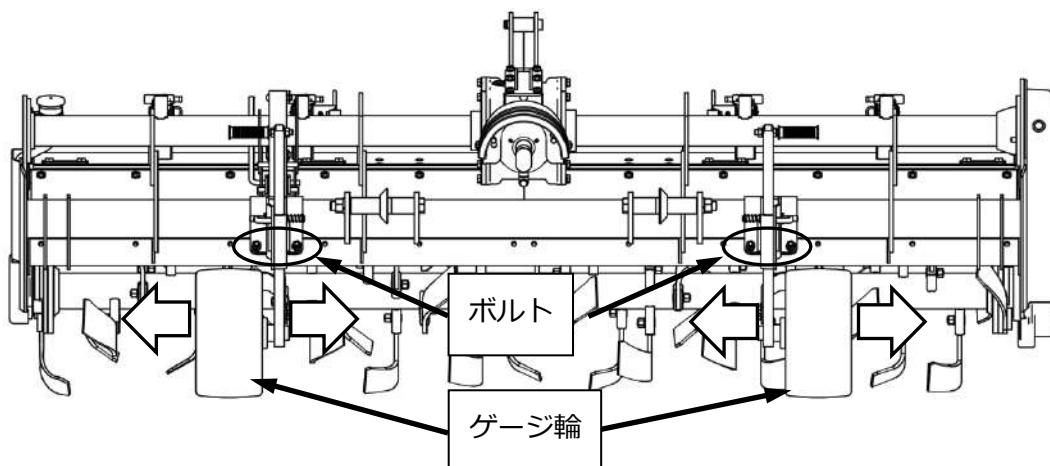
本機のスタンドを外した状態で地面に降ろし、サイドプレートに貼り付けられているラベルのラインが水平になるように、トップリンクの長さを調整してください。



Ⅴ. ゲージ輪の幅調整

ゲージ輪は、トラクタの後輪中央に配置されるよう、ゲージ輪ホルダを固定しているボルトをゆるめ、左右にスライドさせ調整してください。

調整したあとは、ゲージ輪ホルダをサポートフレームに、ゆるめたボルト4本を締め込み、しっかりと固定してください。



移動・ほ場への出入り

警告

- ロータリが装着されますと後ろが長くなります。周囲の人や物に注意して旋回してください。
- 高速移動・急発進・急停止はしないでください。旋回するときはスピードを落としゆっくりと旋回してください。
- 運転者以外の人や物をのせないでください。
- 子供には十分注意し、機械へは近づけないでください。
- 急な上り坂で前輪が浮き上がると、ハンドル操作ができなくなり大変危険ですので、純正のバランスウェイトを付けてください。
- あぜ越えや段差を乗り越えるときは、必ずアユミ板を使用し地面に接しない程度にロータリを下げ、重心を低くしてください。

注意

- トラクタに作業機を装着した状態での公道走行時は法令を遵守する。
トラクタに作業機を装着した状態で公道を走行する場合は、下記の法令を遵守する必要があります。
【道路運送車両法】 保安基準として、灯火装置や反射器、制限標識などを必要に応じて取り付け
【道路交通法】 免許区分に応じた運転免許証の携帯
【道路法】 一定の大きさや重量を超える場合は、特殊車両通行許可の申請
- ※ 詳細は農林水産省や日本農業機械工業会の HP をご覧頂るか、販売店にお問い合わせください。
守らないと、法令違反となります。

1. 移動時は、作業機を最上げにし、落下速度調整ハンドルを完全に閉め、作業機が下がらないようにしてください。
 2. ロータリが左右に振れないように、チェックチェーンを張り、ロックナットを締めてください。
 3. 悪路を移動走行する時は、リヤカバーを下げ、調圧ロットのスプリングでリヤカバーの振れをなくしてから走行してください。作業を行う前に、再度調整をおこなってください。
- ※ リヤカバーをフリーの状態にしたまま走行した場合、段差などの振動で、リヤカバーが曲損する恐れがあります。
4. ほ場の出入りは、あぜに対して直角にゆっくり走行してください。
出入り口の勾配がきつい場合は、前進で圃場へ進入し、後進で出るようにしてください。
 5. ロータリの地上高が不足する場合は、トップリンクを縮め、地上高を確保してください。
作業を行う前に、再度調整をおこなってください。

注意

- トップリンクの調整をするときは、作業機を下げ、エンジンを停止してからおこなってください。
守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。

作業前の点検

警告

- 点検は交通の邪魔にならず安全で平坦な固い場所でおこなって下さい。
- 点検・整備・調整をするときは、必ずエンジンを停止させてからおこなって下さい。
- トラクタの取扱説明書「作業前の点検」をよく読んで下さい。
- 機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために必ず作業前の始業点検をおこなって下さい。
- 各部のゆるんだボルト・ナットなどは、増締めをして下さい。

機械まわり

1. 各部の損傷・汚れ・ボルトのゆるみの点検
2. ミッションフレーム、チェーンケースのオイル量点検
3. ジョイントのグリース点検
4. 耕うんツメなどの消耗部品の点検
5. 地面から持ち上げ回転させ、異音・異常の点検

※異常を見つけたら、修理、交換、補給をおこなって下さい

作業時の注意

警告

- 作業中は、トラクタとロータリの周辺に人を近づけないでください。
- ツメや回転部分に草やワラが巻きついたときは、PTO回転を止め、必ずエンジンを停止させてから巻きつきを外してください。
- 傾斜地での急旋回は転倒するおそれがあり大変危険ですので、トラクタの速度を落としゆっくり大きく旋回してください。
- ロータリの調整をする場合は、必ずエンジンを停止してからおこなってください。

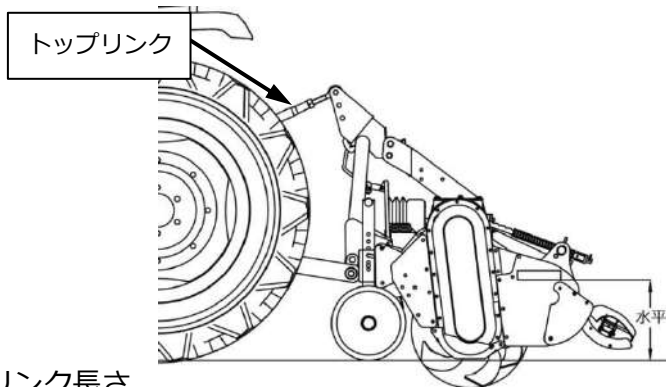
1. あぜ際での作業は、あぜにロータリをぶつけないように低速で余裕をもって運転してください。
2. 作業が終わりましたら土やゴミをほ場内できれいに落としてから路上走行してください。

注) 道路には土やゴミを落とさないでください。

3. 作業中ロータリに異常が発生したら、ただちにエンジンを停止させ点検をおこなってください。
そのまま使用し続けると他の部分にも損傷が広がるおそれがあります。

作業姿勢の調整

下図を参考に、各項目を確認してください。



I. トップリンク長さ

サイドプレートに貼り付けられているラベルのラインが水平になっているよう、ロータリの前後の角度をトップリンクにて調整してください。

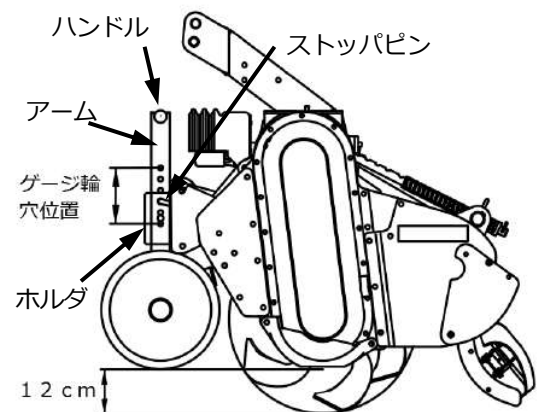
II. ゲージ輪

ゲージ輪の高さは、ホルダに上下2カ所、アームに6カ所の穴があり、ホルダとアームの組み合わせにて調整をおこないます。

ハンドルの下に穴が3個見える位置で、ゲージ輪のストッパピンをホルダの上穴に差し込んでください。

耕深約12cmの設定となります。

左右のゲージ輪は同一箇所の穴位置にセットしてください。



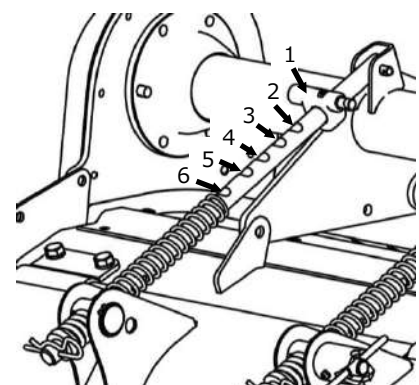
III. 調圧ロット部スプリングエンドの位置

1. 通常作業時は、調圧ロットの1の溝を使用してください。

2. オート装置使用作業時は、調圧ロットの4,5の溝を使用してください。

※ (オート装置の取扱説明書に従ってください。)

3. 碎土性を上げる時は、調圧ロットの4,5,6の溝を使用してください。

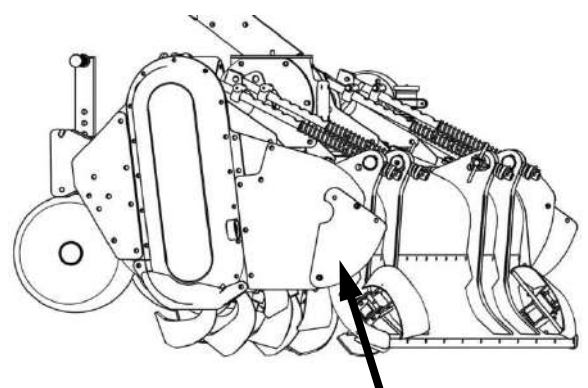


IV. 補助サイドプレート

補助サイドプレートの位置を変更すると一層きれいな仕上がりになります。

※ (出荷時は、中間の位置に組立ててあります。)

※ 29ページにも詳しく説明してあります。

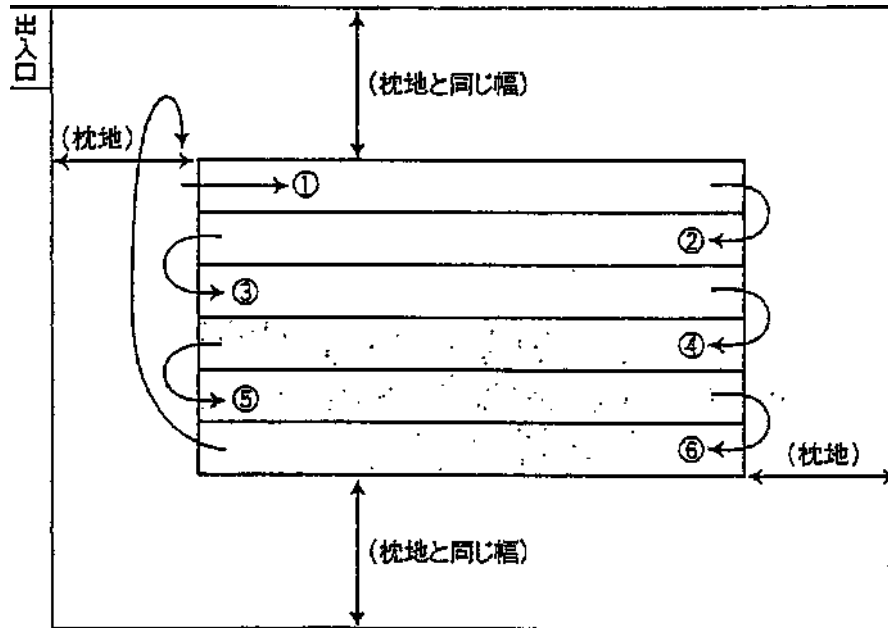


補助サイドプレート

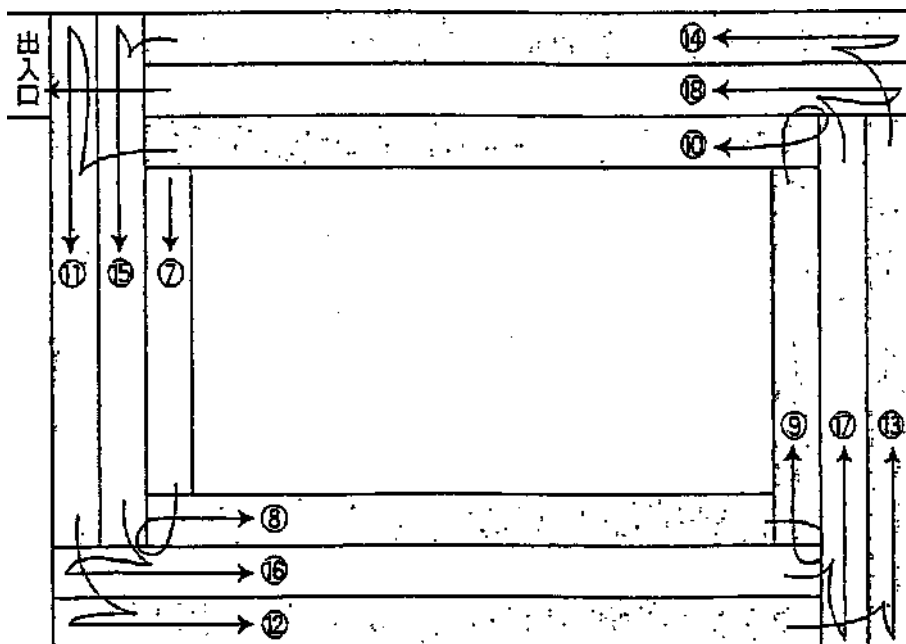
作業方法

下記にある耕法は、一般的におこなわれている耕法で、ほ場の形や条件にあった方法で使用してください。

1. トラクタ旋回用の枕地を、ロータリ耕うん幅の3行程分取り、両側にも枕地と同じ幅を残します。
2. ①～⑥の順に、ほ場の長辺をまっすぐ耕うんします。側方の未耕地が枕地と同じ幅になるまで、往復作業での耕うんをおこないます。



3. 枕地の内側から⑦～⑩の耕うん作業をします。
4. あぜ際⑪～⑭を、耕うん作業します。ブラケット側をあぜ際に合わせ、反時計回りに耕うん作業を行うと残耕が少なくなります。
5. 最後に、間に残った⑮～⑯を、耕うんして圃場から出ます。



上手な作業のしかた

I. 作業速度とツメ軸回転速度（PTO速度）

トラクタの作業速度とロータリのツメ軸回転速度は相関関係にありますので、各項目を目安に作業目的や土地条件に合わせて選択してください。

1. 水田の荒起こし作業は、PTO 1速でおこないます。
また、リヤカバーを上げておこなってください。
2. 負荷の大きい粘土地は、作業速度を遅くします。
3. 粘湿度が高く土を抱きやすい状態は、PTO回転数を上げ作業速度を遅くします。
4. 畑地の碎土作業は、リヤカバーを加圧して作業します。
5. プラウ耕、スキ耕跡は、作業速度も速くできます。（自動水平制御装置を切って使います。）
6. ロータリ耕による緑肥などの鋤き込みの際は、PTO回転数を2速にします。
7. 転作水田の碎土作業は、PTO回転数を速くし、作業速度を遅くして、ていねいに耕うんします。
8. ほ場が固くダッシングしする場合は、PTO回転数を上げ、作業速度を遅くして作業します。
9. 石の多いほ場は、PTO回転数・作業速度ともに遅くして作業してください。

II. 作業深さの調整

ハンドルの下に穴が3個見える位置で、ゲージ輪のストッパピンをホルダの上穴に差し込んでください。

耕深約12cmの設定となります。

ゲージ輪ストッパピンを引き出し、ゲージ輪アームを上下して調整します。

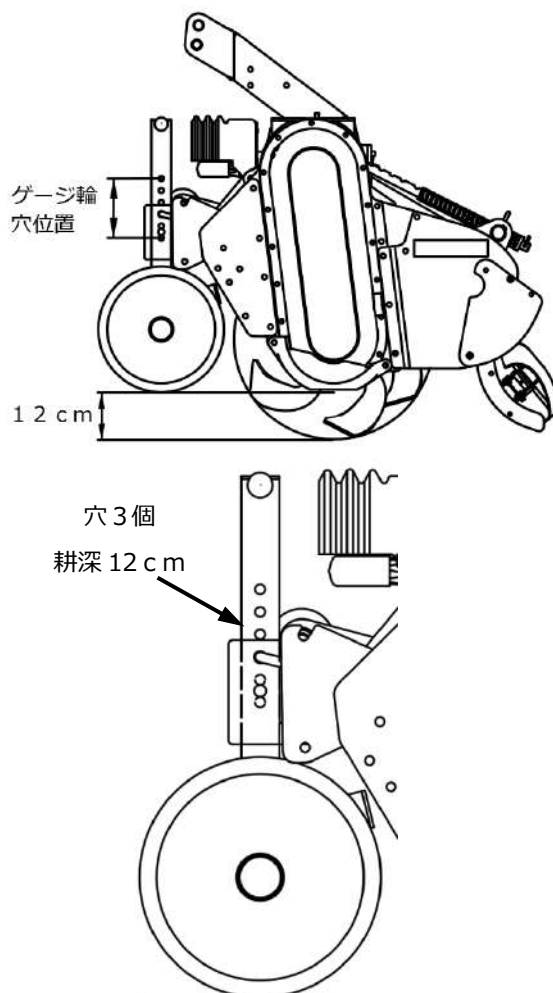
ホルダには上下2箇所のストッパピン穴があります。

ストッパピンを引き出した後、回転させもう一方の穴にストッパピンを挿入すると15mm間隔で調節できます。

左右のゲージ輪は同一箇所の穴位置にセットしてください。

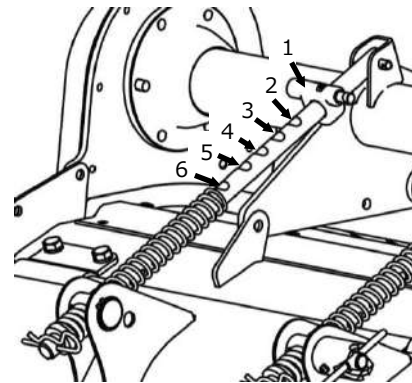
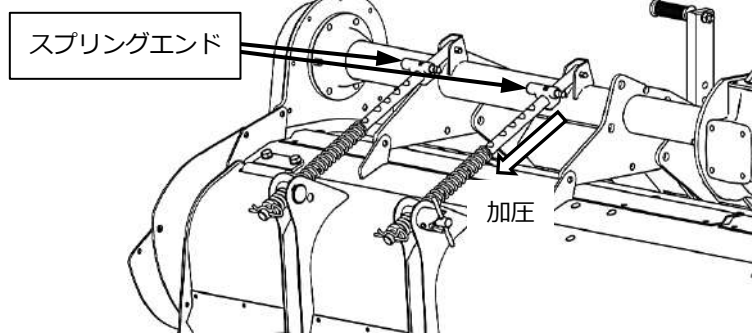
トラクタ油圧は、ポジションレバーを最下げ位置で使用します。

ポジションレバーは途中で止めないでください。



Ⅲ. リヤカバーの調整

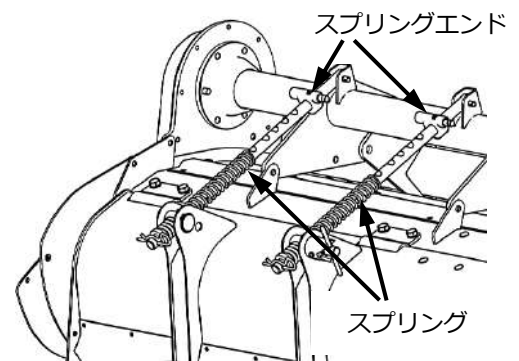
リヤカバーの上下、および調圧スプリングの調整は、碎土性能、土の反転性、表面の仕上がりなりに、大きく影響してきます。調圧ロットのスプリングエンドを移動させ調整してください。



1. 一般耕うん作業

スプリングエンドを一番上にしてスプリングをフリーにしリヤカバーだけの重量で表面を押さえます。

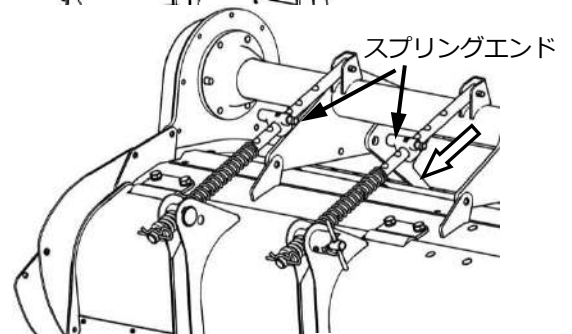
(図は、一番上)



2. 畑地での碎土作業 (1)

鎮圧させたい場合は、スプリングエンドを下げてスプリングをきかせ、スプリングの力で表面を押さえます。

(図は、上から4番目)

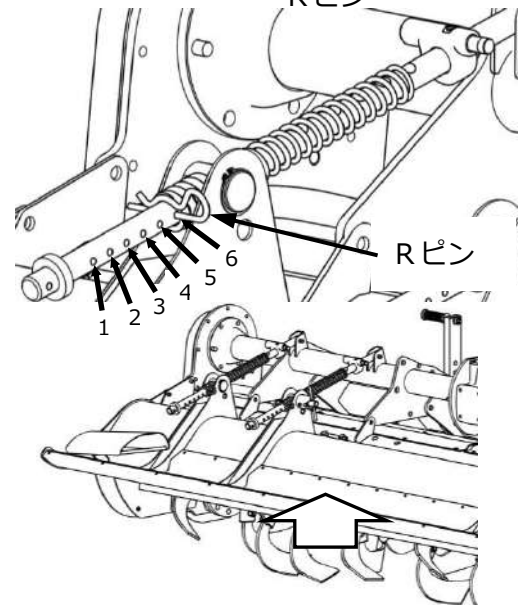
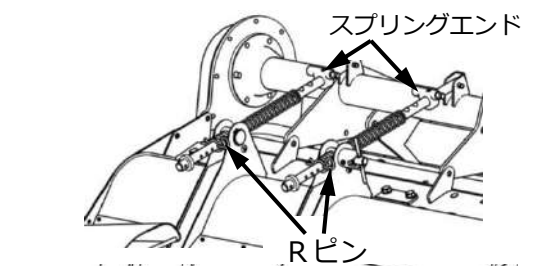


3. 畑地での碎土作業 (2)

レベラーによる鎮圧をさせたくない場合は、スプリングエンドを一番上にしてスプリングをフリーにしRピンを下から2～4番目の穴に差し込んでリヤカバーを浮かせると土溜まりが少なくなり鎮圧も低減できます。

4. 石の多いほ場や粘湿田

石の多いほ場や粘湿田では、スプリングをフリーにしRピンを下から2～6番目の穴に差し込んでリヤカバーをほ場表面から浮かせてリヤカバーの損傷や土溜まりを少なくして使用してください。



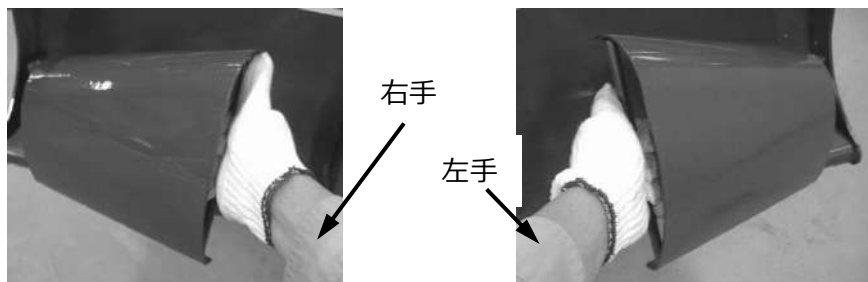
IV. 延長サイドレバラーの操作

畑地などで継目をならす延長サイドレバラーは、次の要領で操作してください。

! 注意

- 延長サイドレバラーは、本書のとおり操作してください。
守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。
- ※引き張りスプリングが効いておりますので、必ずゆっくりと開閉作業をおこなってください。

1. 後ろから見て左側の延長サイドレバラーは、右手で操作してください。
2. 後ろから見て右側の延長サイドレバラーは、左手で操作してください



左側延長レバラー

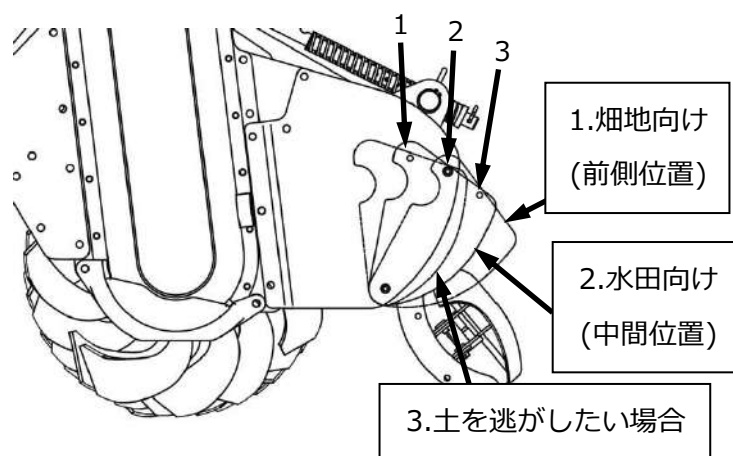
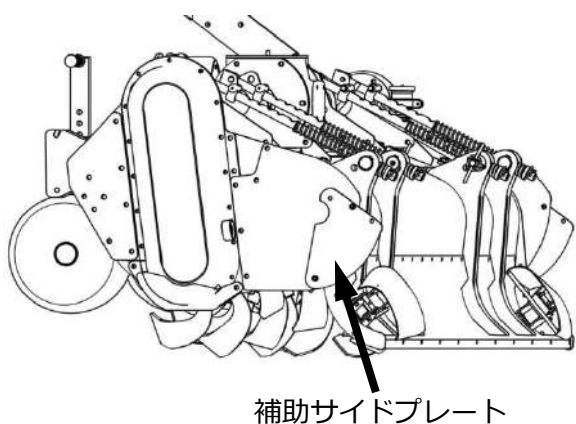
右側延長レバラー

V. 補助サイドプレートの調整

補助サイドプレートの位置を変更することで、水田向け、畑地向けに調整できます。

出荷時は、中間の位置に組立ててあります。

1. 前側の取付け位置・・・畑地向け
2. 中間の取付け位置・・・水田向け (出荷位置)
3. 後側の取付け位置・・・土を逃がしたい場合



VI. 逆転PTOについて

耕うん作業後、土寄せ程度の逆転作業はできますが、未耕地耕うんは逆転作業をおこなわないでください。使用した場合、機械の損傷につながります。

Ⅶ.リヤカバー上げロックの使い方(アシスト装置付)

このロータリはレバー操作により、リヤカバーを跳ね上げた状態(上げロック)で固定することができます。爪交換・泥落とし・洗浄作業時に使用してください。

⚠ 注意

- 爪交換・泥落とし・洗浄作業時は必ず、エンジンを止めてからおこなってください。
- 自動耕深制御付(トラクタ側)の場合は、「耕深調節ダイヤル」を「切」にしてください
- リヤカバー跳ね上げを解除する際は、周り又は、リヤカバーの下に人がいないか確認してから解除操作をしてください。

※守らないと傷害事故を引き起こすおそれがあります。

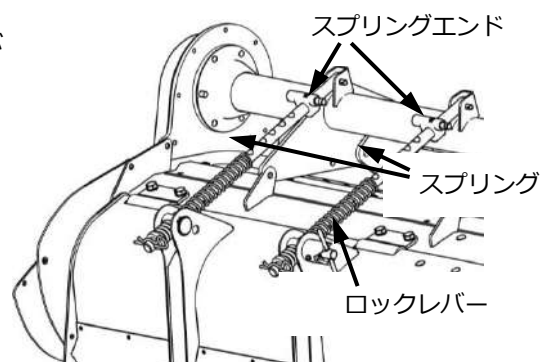
- 「ロック」「解除」の操作をおこなった場合は、左右がロックまたは解除したか、確認してください。

※片側だけでは、破損の原因になります。

- リヤカバーが宙づり状態の場合は、路上走行しないでください。

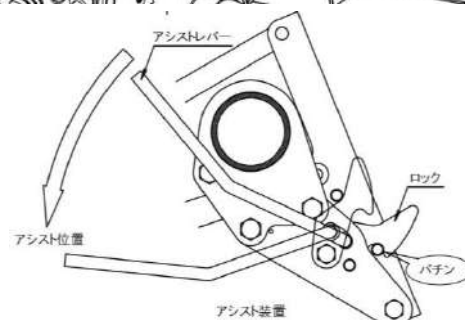
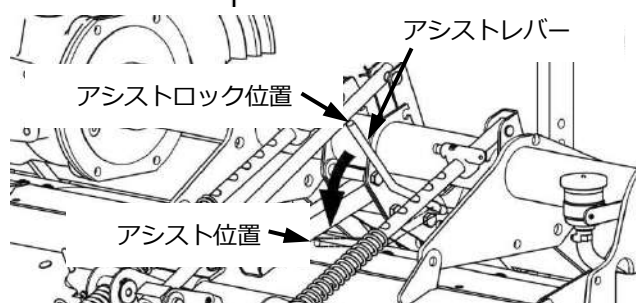
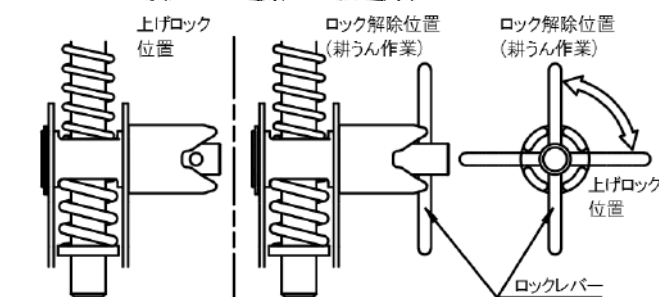
～リヤカバーの跳ね上げ手順～

1. スプリングエンドを一番上の溝にセットし、スプリングがたわまない状態にします。
2. 左右2個のロックレバーを回転させ、上げロック位置(レバーがV溝に向いている状態)にします。
3. アシストレバーを下げ、アシスト位置にします。
4. リヤカバーの後部を持ち上げると、パチンと音がなり自動的に上げロックになります。



～リヤカバーの跳ね上げ解除手順～

1. 左右2個のロックレバーを回転させ、解除位置(レバーが山の上にいる状態)にします。
2. リヤカバー後部を一旦持ち上げると、パチンと音が鳴り自動的にロックが解除されます。
3. リヤカバーをゆっくりと下げ、下端まで来たらアシスト装置のロック音が、パチンと鳴るまでさらにリヤカバーを押し下げてください。
4. アシスト装置のロックが確実にされていることを確認してください。



補足

- 自動耕深制御をするとき、リヤカバーを跳ね上げた状態では使用できません。

トラクタからの取り外し

(作業前には、必ずエンジンを停止してください)

注意

作業機に寄りかかったり、乗ったりしないでください。

作業機を取り外し時は、PTOを中立にし、平坦な場所でおこなってください。

守らないと傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. 平坦で固い場所を選んでください。周りに人や動物・障害物がないことを確認してください。
2. 3S/3L装着の場合、トラクタのポジションレバーを操作し、ジョイントを取り外しやすい位置になるよう、作業機を調整してください。
(4S/4L装着の場合は、手順5.へ)
3. トラクタのエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、PTO変速を「中立」にし、エンジンを始動できないようキーを抜いてください。
4. ジョイントを、作業機側の入力軸から外し、次にトラクタ側PTO軸から外します。

危険

ユニバーサルジョイントを取り外しするときは、必ずエンジンを停止してください。

守らないと巻き込まれて、死傷事故を起こす恐れがあります。

警告

脱着作業する時は、平坦で固い場所でおこなってください。2人で作業をする時は、お互いに合図しあって、注意して作業してください。

注意

周りに人や動物・障害物がないことを確認してから作業してください。

トラクタから作業機を取り外す前に、必ずジョイントを取り外してください。

トラクタ、作業機、ジョイントを破損する恐れがあります。

5. 電子式、もしくはワイヤー式で、作業機からトラクタへ直接連結されるオート耕深キットを装着している場合は、ハーネス、もしくはワイヤーを取り外してください。
(5Pオートキットを使用している場合は、取り外す必要はありません。)
6. トラクタのエンジンを始動させ、ポジションレバーを操作し、作業機を上昇させてください。
7. トラクタのエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、PTO変速を「中立」にし、エンジンを始動できないようキーを抜いてください。
8. 左右のスタンドブラケットにスタンドを取り付けてください。
9. オートヒッチのロックレバーの解除をしてください。
10. レバーを引きロックプレート解除してください。
11. トラクタのエンジンを始動させ、ポジションレバーをゆっくり下げて、作業機のスタンドが接地し、ロフピンがロックプレートから抜けるまで作業機を下げます。

12. オートヒッチのフックが、トップピンから外れたら、ポジションレバーを止めます。

13. トラクタをゆっくり前進させ、作業機から離れます。

作業機が外れない場合は、トラクタがまっすぐ前進していない場合や、作業機が左右に傾いている場合がありますので、確認しやり直してください。

点検整備・保守管理について

警告

●点検・整備をするときは、交通の邪魔にならず安全なところを選んでください。

機械が動いたり、倒れたりしない平坦な場所でトラクタの前輪に車止めをしてください。

●点検整備のときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してからおこなってください。

●ロータリの落下防止をするため、油圧ストップバルブを完全に閉めてロックし、さらにロータリの下に台を入れてください。

●ツメや回転部分に草やワラが巻きついたときは、必ずエンジンを停止させ、巻きつきを取り除いてください。

守らないと死亡事故や傷害事故の原因になります。

●保守、点検、調整でカバー類を取り外した場合は、必ず、元の場所に取り付けてください。

守らないと機械に巻き込まれて死亡事故や傷害事故を引き起こす恐れがあります。

注意

●点検、整備に必要な工具などは、目的に合った適正な工具を使用してください。

守らないと整備不良で事故を引き起こす恐れがあります。

●厚手の手袋を着用し、手の保護を行ってください。

守らないとケガをする恐れがあります。

I. 作業シーズン中

作業終了後、水洗いをしてボルト、ナットの緩み、脱落を確認し、補充または増し締めを行ってください。可動部には、給油・注油をおこなってください。

II. 作業シーズン終了後

水洗い・乾燥・補修塗装・給油・注油等を行い、破損部品・脱落部品がある場合は、早めに部品交換・修理をおこなってください。

格納は、湿気・埃がなく平坦で安全な場所に安定させて保管してください。

Ⅲ. オイルの点検、交換及びグリース注油について

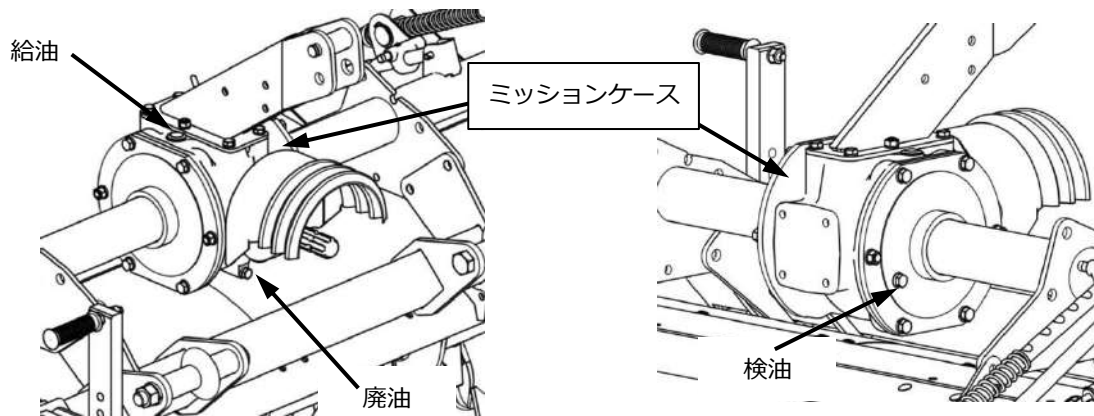
1. オイルの点検、交換

チェーンケースを垂直にした状態で各部のオイル量の点検を行ってください。

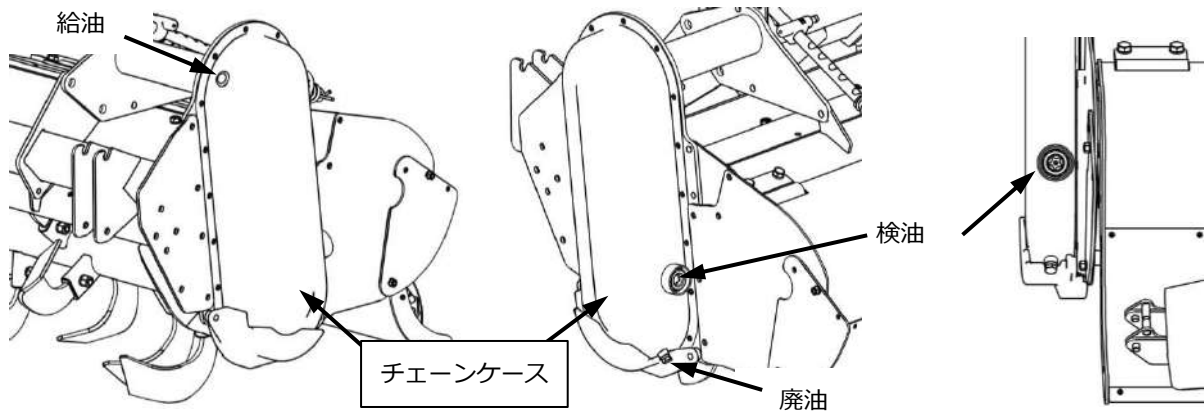
不足の場合は補給してください。下表及び下図を参照してください。

	オイルの種類	オイル量	交換時期
ミッションケース	スーパーハイポイドギヤオイル # 90 (相当品)	1.8 ℓ	初回 50 時間、次回 200 時間
チェーンケース	スーパーハイポイドギヤオイル # 90 (相当品)	1.7 ℓ	初回 50 時間、次回 200 時間
サイドケース	スーパーハイポイドギヤオイル # 90 (相当品)	0.2 ℓ	初回 50 時間、次回 200 時間

☆ミッションケース

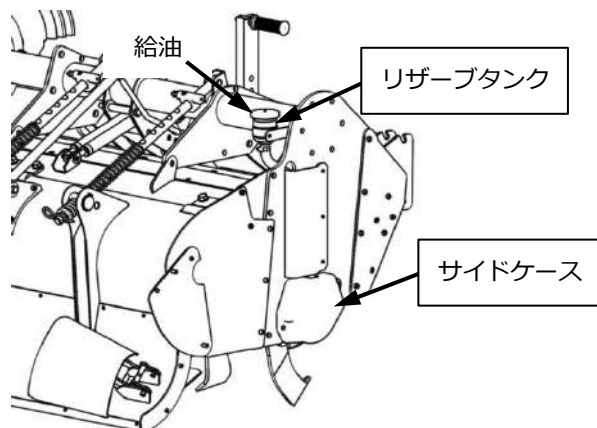


☆チェーンケース



☆サイドケース

交換時期以外に、リザーブタンク内のオイルが無くなったら給油すること。



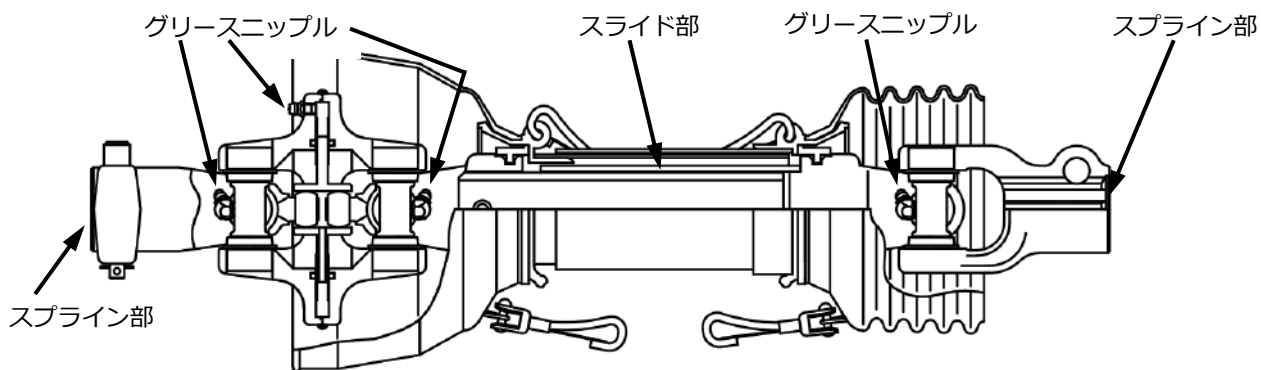
◎廃油処理について

オイル交換で出た廃油は、河川や下水道、溝、空地などには、絶対に捨てないでください。
環境汚染につながります。廃油の処分方法については、販売店にご相談ください。

2. グリース注油箇所は、ユニバーサルジョイントとゲージ輪です。

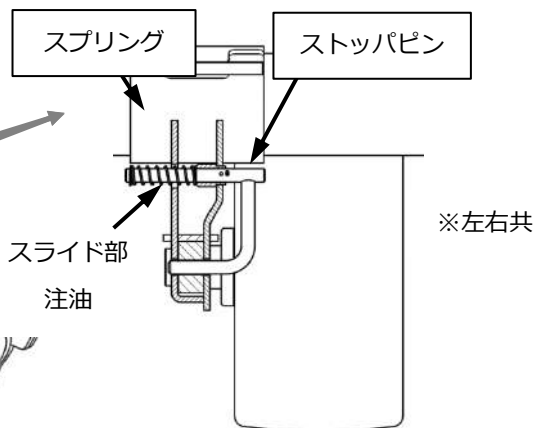
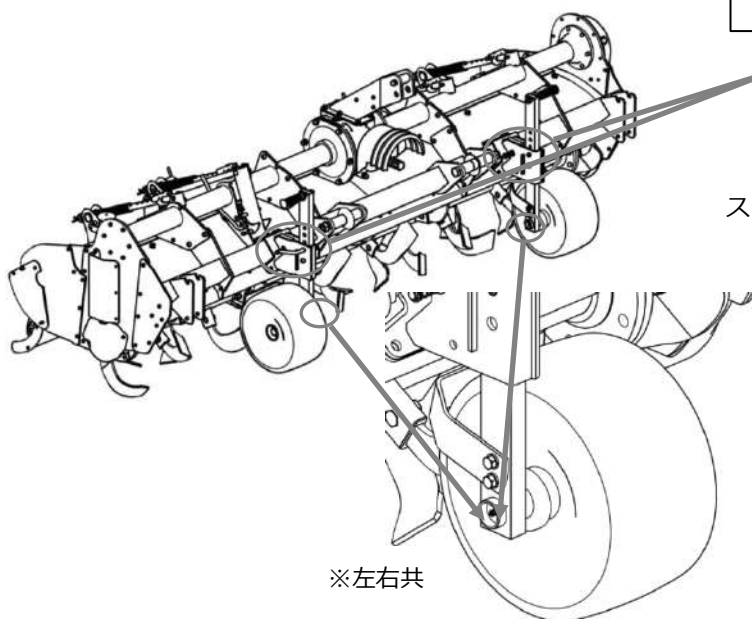
注) シーズン前に、グリースを適量注油してください。

☆ユニバーサルジョイント



☆ゲージ輪

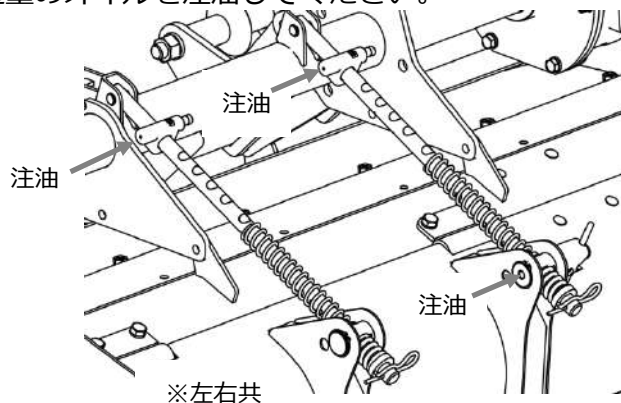
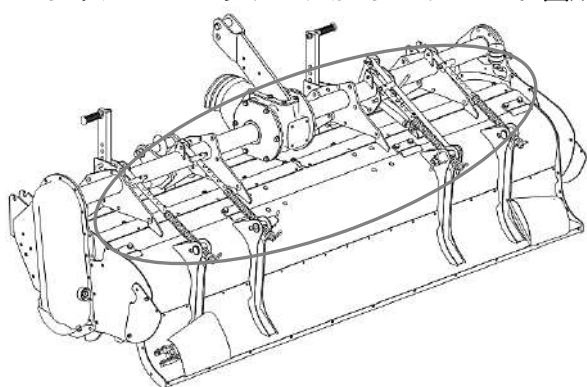
ゲージ輪側面のキャップを外し、注油してください。



ストッパピンとスプリング部に
適量のオイルを注油してください。

注油後、あふれたグリースをふき取り再度キャップをしてください。

3. リヤカバーロック・スプリングエンド箇所に適量のオイルを注油してください。



IV. フローティングシールの交換

1. 各 부품の点検

フローティングシール組込み前に各 부품の点検をしてください。

フローティングシールのパッキンに傷がないか、摺動面に錆が無いか確認してください。

傷や錆があるフローティングシールはオイル漏れの原因となります。

絶対に使用しないでください。

シール組込み溝にバリやカエリ、異物が付着していないか確認してください。

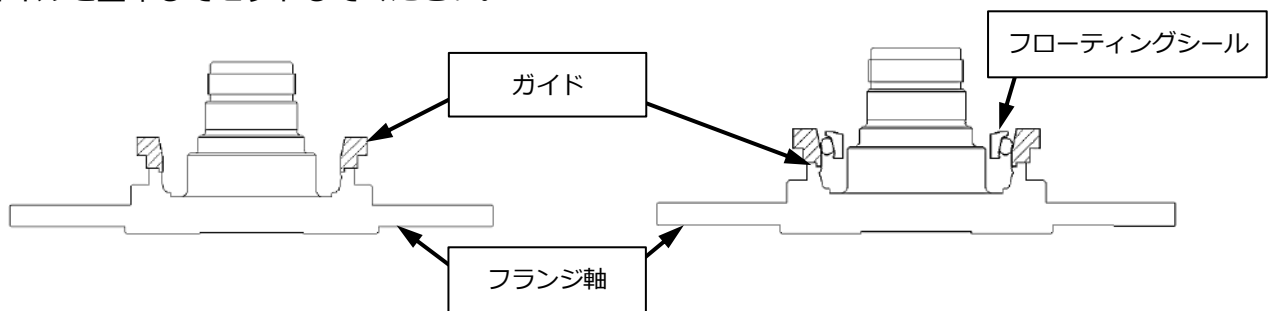
異物は拭き取る等して除去、バリやカエリはサンドペーパーで除去してください。

シール組込み工具に異物が付着していないか確認してください。

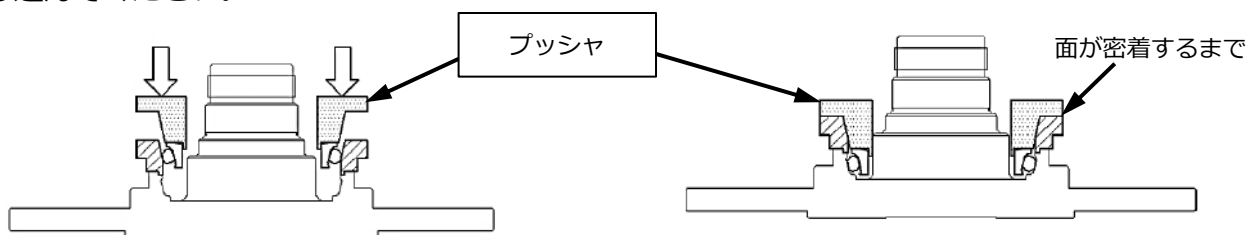
異物が付着している場合は拭き取る等して除去してください。

2. フランジ軸への組込み

1) フランジ軸にガイドをセットし、フローティングシールのシール面（外周）に# 90のギヤオイルを塗布してセットしてください。



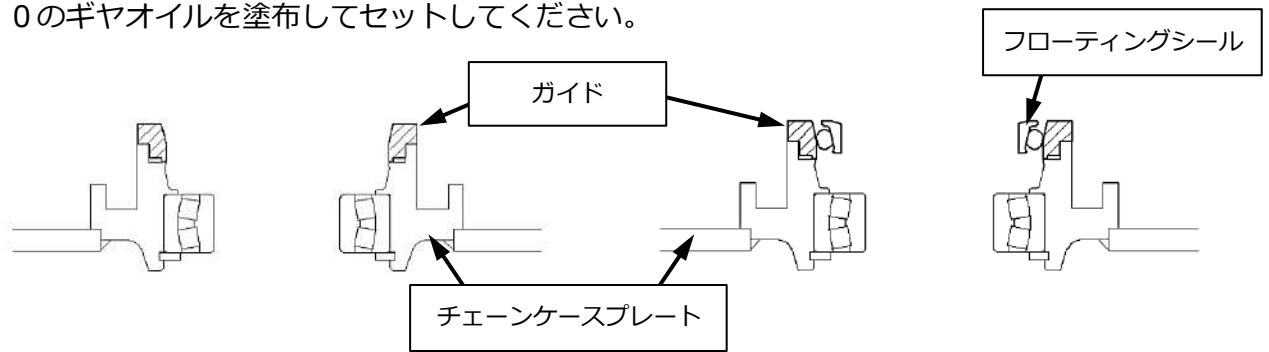
2) プッシャをシールに当て、面を均等に押し込みます。プッシャがガイドに当たるまで押し込んでください。



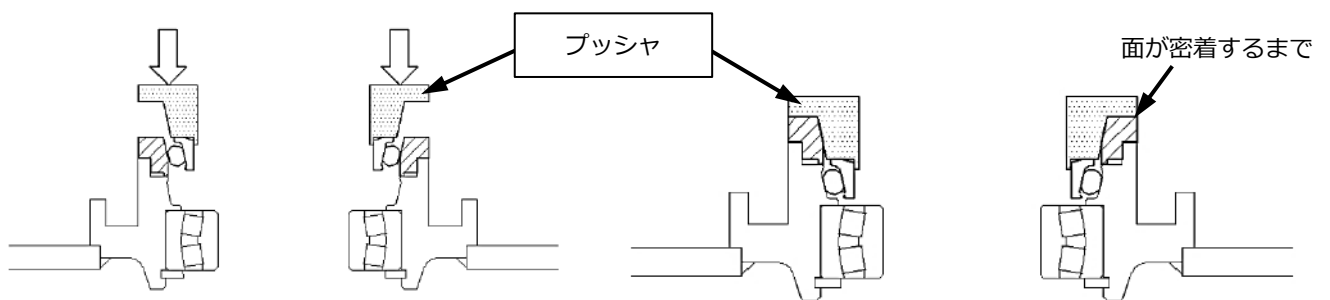
3) プッシャとガイドを取り外し、フローティングシールにネジレや浮き上がりが無いことを確認してください。

3. チェーンケースプレートへの組込み

1) チェーンケースプレートにガイドをセットし、フローティングシールのシール面（外周）に # 9 0 のギヤオイルを塗布してセットしてください。



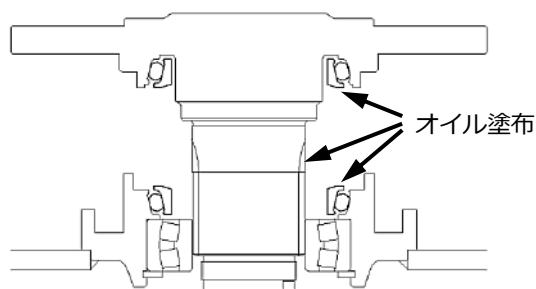
2) プッシャをシールに当て、面を均等に押し込みます。プッシャがガイドに当たるまで押し込んでください



3) プッシャとガイドを取り外し、フローティングシールにネジレや浮き上がりが無いことを確認してください。

3. フランジ軸とチェーンケースプレートの組込み

1) フランジ軸とチェーンケースプレートに組付けたフローティングシールの摺動面（フローティングシール同士が当たる面）と、フランジ軸のシャフト部に # 9 0 のギヤオイルを塗布し、図のようにフランジ軸を上からハンドプレス等で組付けて下さい。



⚠ 注意

● ハンマー等で打ち込まないでください。フローティングシールが損傷し、オイル漏れの原因となる恐れがあります。

4. フローティングシール交換後

チェーンケースにオイルを入れた後、耕うん軸を手回し、スムーズに回ることを確認してください。

V. ツメ交換について

1. ツメの交換は、平坦で安全な場所で、トラクタの車止めをしてからおこなってください。

2. 本機の落下防止のため、油圧ストップバルブを完全に閉めてロックしてください。

さらに、ロータリの下へ台を入れてください。

※守らないと死亡事故や傷害事故の原因になります。

3. ツメの交換は回転バランス上、全数交換をしてください。

4. 交換作業は取り外し、取り付けを1本ずつおこなってください。

5. 交換時期は、溶射がなくなる位置が交換の目安です。

●ホルダー仕様

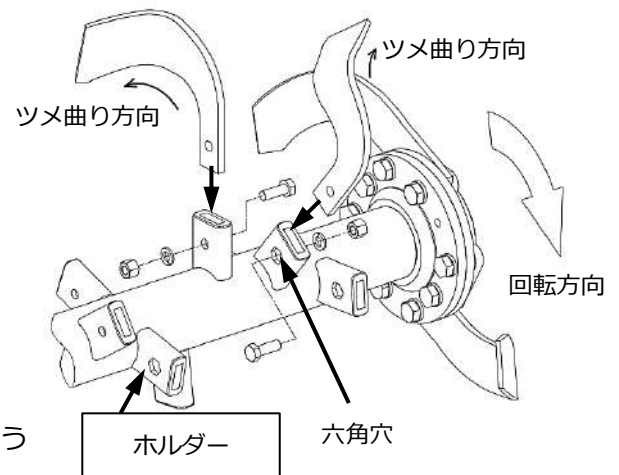
ローター軸には、標準平面耕のツメ配列になるように、ツメの曲り方向を合わせて、ホルダーが溶接されています。

ホルダーへのツメの組立は、ホルダーの六角穴に対しツメの曲がり方向が反対を向くよう、確認しながらホルダーへツメを挿入し、ツメ取付ボルト、ナットにて締め付けてください。

締め付けトルク 120～130 N・m
(1224～1326 kgf・cm)

左右両端のツメは、フランジ面にツメが内向きになるよう組立してください。

締め付けトルク 190～200 N・m
(1937～2039 kgf・cm)



トラブルの原因と処置方法

部位	現象	原因	処置	ユーザー	販売店
ト ン ク シ ム	異音発生	ヨーク部のグリース不足	グリース給油	○	○
	ジョイント鳴り	ジョイントに角度が付 きすぎている	3点リンクの上げ規制 (リフトロッドの穴位置変更) (トップリンクの穴位置変更)	○	○
		ロータリの上げすぎ			
	振動発生	ジョイントの取付けが 逆	広角側がトラクタ側になるようにする	○	○
		チューブのラップ量不 足	長いジョイントへ交換	○	○
		最上げ時のジョイント 角度のつきすぎ	トップリンクで調整して振動がなくなる ようにする。 (各トラクタの専用ヒッチは基本的には 調整不可ですが、ロータリの使用出来る範 囲でトップリンクを調整する。)	×	○
	破損	ジョイントが長い	ジョイントを適正長さにする。 (P 2 0 参照)	○	○
		ジョイントに角度が付 きすぎている。 (作業機側のジョイン ト角度)	3点リンクの上げ規制 (リフトロッドの穴位置変更) (トップリンクの穴位置変更)	○	○
			トップリンク調整。 トップリンクを伸ばすと作業機側の軸が 上を向く。 トップリンクを縮めると作業機側の軸が 下を向く。	○	○
	ミ ニ シ シ ン ケ ー ス	オイル漏れ	オイルシールの損傷	オイルシール交換	×
廃油口のシールの劣化			シール座金の交換	○	○
締付けボルトの緩み			ボルトの増締め	○	○
異常発熱		オイル量不足	オイル補給。	○	○
		オイルの汚れ	オイル交換	○	○
		オイルシールの損傷に よるオイル漏れ	オイルシール交換	×	○
ロータ空回り		シャフトの切損	シャフトの交換	×	○
		チェーンの切損	チェーンの交換	×	○

	現象	原因	処置	ユーザー	販売店
ミッションケース	異音の発生	ベアリングの異常	ベアリング交換	×	○
		ギヤの損傷	ギヤの交換 (ベベルギヤ交換は組み合わせでお願いします。)	×	○
		ベベルギヤのかみ合い不良	シムで調整	×	○
チェーンケース	オイル漏れ	オイルシールの損傷	オイルシールの交換	×	○
		カバーパッキンの切損	パッキン交換	×	○
		カバー取付けボルトの緩み	ボルトの増締め	○	○
	ロータ空回り	チェーンの切損	チェーンの交換	×	○
	異音発生	テンションバネの破損	テンションバネの交換	×	○
		スプロケットの損傷	スプロケットの交換	×	○
		軸端ボルトの緩み	ネジロック剤塗り直しによる締付け	×	○
	熱の発生	オイル量不足	オイル補給	○	○
オイルの汚れ		オイル交換	○	○	
耕うん軸	異音の発生	ベアリングの異常	ベアリング交換	×	○
		ツメ取付ボルトのゆるみ	ボルト締付	○	○
	振動の発生	耕うん軸の曲がり	耕うん軸交換	×	○
		耕うんツメの配列間違い	ツメ配列のチェック	×	○
		土やワラの抱き込み	土やワラを除去する。	○	—
		ツメの曲り又は破損	ツメを交換する。	○	○
		ボルトのゆるみ	作業を中断し、ゆるみがないか確認し、締付けて下さい。	○	○
		ボルトのゆるみ	(P 36 ツメ交換についてを参照)	○	○
	軸が回らない	チェーンの切れ	チェーン交換	×	○
		駆動軸の切れ	駆動軸交換	×	○
		耕うん軸の破損	耕うん軸交換	×	○
	オイル漏れ	シールの異常	シール交換	×	○
	残耕ができる	耕うんツメの磨耗、折れ	耕うんツメの交換	×	○
	土寄りがる	耕うんツメの配列間違い	ツメ配列チェック	×	○

主要諸元

型式・区分	ACE243R/RL
駆動方式	サイドドライブ
機体寸法 全長(mm)	1170
全幅(mm)	2600
全高(mm)	1075
質量 (kg) 0S/0L	540
3S/4S	565
3L/4L	570
適応トラクタ (kW)	44.1~55.2
(PS)	(60~75)
標準耕幅 (mm)	2400
標準耕深 (mm)	100~150
標準作業速度 (km/h)	1.5~5.5
入力軸回転数 (rpm)	540
耕うん軸回転数 (rpm)	192
耕うんツメ取付方法	ホルダー
ツメの種類 使用本数	SPT719L 2本 SPT719R 2本 CKT2L 21本 CKT2R 21本
耕うんツメの回転径 (mm)	510
耕深調節機構	前ゲージ輪
耕うん作業能率(分/10a)	6~20 (条件による)

※本諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。



株式会社

ホームページ <http://www.sasaki-corp.co.jp>

ササキコーポレーション

本社・工場 / 〒034-8618	青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-22-3111	FAX 0176-22-8607
製品窓口 / 〒034-8618	青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-22-0170	FAX 0176-25-3127
部品窓口 / 〒034-8618	青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-25-3170	FAX 0176-25-3171
北東北営業所 / 〒034-0001	青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-75	TEL 0176-23-0354	FAX 0176-23-9655
仙台営業所 / 〒989-1631	宮城県柴田郡柴田町東船迫2-4-11	TEL 0224-58-7780	FAX 0224-58-7782
関東営業所 / 〒329-0201	栃木県小山市栗宮1241-9	TEL 0285-45-8911	FAX 0285-45-8910
新潟営業所 / 〒954-0051	新潟県見附市本所1丁目14番17号	TEL 0258-61-1810	FAX 0258-62-3160
岡山営業所 / 〒702-8002	岡山県岡山市中区桑野110-2	TEL 086-274-9508	FAX 086-274-9510